愛國婦人

定價一部金參錢五厘　一ヶ月分金七錢　半年分金四拾貳錢　全國無郵送料
廣告料一行六拾錢
本誌全部禁轉載

每月二回　五日廿日發行
發行所　東京麹町區(牛ヶ淵公園)　愛國婦人發行所
印刷兼發行人　山澤俊夫
編輯人　永持德一

本を讀むべし（三）

製紙と印刷術の進歩し、交通の便の開けたる今日、本を得ることは、實に容易て、如何なる邊鄙ても、本の得られぬことは、決してない。いろはをも知らぬ人は別として、いろはさへ知つて居れば、假名付きの本も、澤山あることゆゑ、本が得られぬからとか、本が讀めぬからとかといふ言ひ拔けは、今日は最早通用せぬこと、なつた。有り體の所、本を讀まぬのは、本が得られぬからても、讀めぬからてもない、讀む氣がなく、奮發心がないからてある。この外に、婦人が本を讀まぬ理由はない、あつても理由にならぬ。中には本は、机に向いて構へ込まねば讀めぬと思ふ人もあるか知らぬが、本は何處ても讀め、また何時ても讀めるものである。竈の前ても、針仕事の合間ても、子に添乳するときても、讀む氣さへあれば、讀む時間は、充分あり、ありすぎるほど轉がつて居る。五分や十分の時間は、何にもならぬやうなが、それが大切なので、歌や俳句、短文などは、その間にも隨分讀めて、得る所が少くない。もし三十分一時間と、時間が取れ、ば、纏まつた本も讀める。況んや召使を澤山使ふて、朝から晩まて、腐るほど時間があるに於てをや。

をり／＼は遊ぶいとまはある人の
いとまなしとて文讀まぬかな

英國の歴史家マコーレーは、その筆の力を以て、大なる名譽と、權力と富とを得、加之、貴族にも列せられた。しかし、彼れは如何なるものも、讀書に勝る幸福はない。もし、余を世界最大の王となし、王宮、禁苑。馬車の數々を與へ、錦衣玉食を意のまゝに供へ、數百の侍者をも勝手に使はれる事にするから、その代り、本を讀んではならぬ、といふ人があつたならば、余は大王たることは眞平お斷はりして、本を澤山持つて家根裏に住んて居る貧民たることを願ふと言ふて居る。この人に一人の娘があつた。この娘にマコーレーは、次の手紙を遣つて居る。

御手紙有りがたく存候。父は、御身を常に幸福ならしめんことを、樂しみと致し居り候。而して、御身が、書物を好まる、を見るほど、父を樂ましむるものは無く候。そは、御身が成人の曉には、書物は、世界におけるあらゆる菓子、玩具、遊戲、見世物よりも良きものなることを知るに至るが故にて候。

マコーレーは、娘の本が好きなのを、かやうに大層喜んだ。今の日本の親は、娘の何が好きなのを喜ぶか。

本は若い時から、讀む癖をつけておくがよい。若い時の讀書は、鮮かに心に映り、且よく覺えられて、生涯の幸福の基となる。朝早くから、子どもの讀書の聲が、屋外に聞えるのは、玄關の撒き水とともに、いかにも氣持のよいもので、その家に品をつけ、家庭をゆかしく思はしむるものである。

「女の癖に、本など讀んで」とは、昔の馬鹿者がいふた事て、今はそんな馬鹿は一人も居ぬから、安心して婦人も本を讀むがよい。年を取つてからは、別して讀書は必要である。近々舊知舊友はなくなる、隱居に暇あり、心淋しく、無聊て困る時、第一の慰めは讀書である。若き時文を讀み習はゞ、か、る時もわびしかるまじ―と益軒も言ふた。姑が本が好きなら、嫁のする事に、一一世話をやいて、日を經ずとも、一層有益な樂しい日が送れる譯てある。若い婦人も、姑となつた時の用意にも、今から、本を讀む癖を、つけておくがよい。

書籍は讀者に活く。いくら良い本があつても、讀んで貰はねば、ないと同じことである。沙漠に圖書館を置いても、役には立たぬ。婦人の間に、圖書館を置いたのは、沙漠にそれを置いたのとは、違ふべき筈である。

人生は短く、讀むべき書物は多い。一生の中に、世界中の書物を讀み盡くさうとするのは、犬が川を渡るのに、水を呑み乾さうと思ふのと同じことである。そこで書物を選むの必要が起る。修養のため、職業のため、娛樂のため、慰安のため等、目的によつて、書物は選まねばならぬ。いかなる場合にも道德上有害なもの、俗惡、下劣、野卑、淫猥なものは、決して讀んではならぬ。ラスキンも、彼の貸本屋の風呂敷包の内にあるが如き、俗惡痴愚なる新刊物を、女子の手に觸れしむるは、甚だ危險なりと斷言して居る。今日は最も斯る注意の入用な時てある。

「有害の書を公にせし人は、彼れの墓に入りて、なほ罪惡を犯しつゝある者なり。彼れは、自身腐敗しつゝある間に、なほも、世人を腐敗せしめつゝあるなり」(ロバート、サウス)。今の著述家には、死んだ後までも、その罪を犯して居るものが少くない。而して、偶々書を讀む婦人があつても、多くは斯る著者を好愛し、嘆美して、知らず／＼、その毒に中り、その文字に咀はれつゝあるのを知らぬのは、情ないことてある。人はその讀む書物て分る。下らぬ書物が好きな人は、下らぬ人間てある。人は、この下らぬ仲間入りをせぬやうにせねばならぬ。心も、身體の如く、額に汗して、その麵包を食ふべきなり」(ヘーア)讀めば、心の糧を與ふる書物を、額に汗して讀め。佐藤一齋曰く、凡そ先輩に疑を質す。生きたる書を讀むに同じ。書を讀む事は、死したる先輩より、訓を受る也。されば經義を講明するに當りては、先輩老人に對し、まの當り質義する心に成り、己を空ふし、其語を身に引當て沈潜すべし。輕卒躁妄なるべからず。能くかくの如くなれば、讀書も亦實行の一以て明。斯の如き書を斯の如き心得にて讀む、こゝに至つて讀書も、その眞諦に達したといふてよい。書を讀む、宜しく斯くの如くなるべきてある。

今や秋冷長夜、當に讀書の好時節である。今年は數十年來の豐作であるといふ。されば大いに書を讀んで、數十年來の精神上の豐作を、この出來秋と共に、お互に取り納れたいものである。(完)

△地方の愛讀者に告ぐ　本誌大取次所中不都合の廉ある者に對し目下嚴談致居候向も有之候間從來大取次所よりの購讀者諸姉にして今後本誌不着等有之候際は該大取次所は既に當發行所と關係無之に至りしものと認められ直接當發行所宛購讀方御申越被下度願上候。

發行所　東京麹町區牛ヶ淵公園　愛國婦人發行所△振替貯金口座番號第壹壹參八壹番　電話番町五二〇／一七四五番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

發展革新

歳の名に因み「飽まて止まざるの覺悟」を我が『愛國婦人』新年號の巻頭に掲げましたことは、愛讀諸姉唯今も御記憶のことゝ存じます。その後去る四月以後、本誌は幾分の發展を致した積で御座いましたが、未だ〳〵不充分の點の多いことは當局者も認めて居り、愛讀諸姉に於かせられても定めし左樣思し召しのことゝ存じまする。これは深くお詫を致さなければならぬと同時に、將來に於て益々發展革新して止まねばならぬことて御座いまする。

本年も早や、春去り夏過ぎ、秋既てに終り、冬將に來らんと致して居ります。あゝ止まさるの覺悟を極めました今年も斯くて數十日の裡に暮れ行くかと思へば、事志と相違せる慚愧の想に編輯局員の胸は充ち盈ちて居りまする。この想を滿足させ、此愛讀諸姉の御好意に酬ゆるには、此際多大の準備を致し、來るべき年に於て更に大發展を致すより他は無いのて御座います。

されば當編輯局裡に於て、此來るべき新年に大發展、大革新を致すべく種々準備中て御座いまする故、その如何に發展革新致しまするかは、次號以下の誌上に於て順次に發表致す心得て御座いまする。愛讀諸姉に於かせられても、一層の御同情の本誌に加はり、進んでは新愛讀者を御勸誘あらんことを祈り置きます。

革新發展

外國人は日本人より何を堀出さんとするか（四）

海軍々醫總監 男爵　高木兼寛

△孝とは從ふの意

今回は孝と云ふ事に就て申上げたい。孝とは何ぞや、と斯う諸姉に伺ふと孝とはお父さん、お母さんに孝行することおちやと斯うお答へになるに相違ないが、併し、孝とは左樣單純なものてはない。

孝とは從ふと云ふことてある。何に從ふのかと云ふに、自然の理に從ふ、宇宙の理に從ふと云ふことてある。それを何故かと云ふに、宇宙の大原則に從はなければ人間は生きて居ることが出來ない。て、何うしても人間と云ふものは無事に生活して居ることが出來ると云ふ事を知つて居る者に、兩親よりも優つた者は無いのてある。て、兩親の敎に能く從へば吾々は此世の中に育つて名も揚げ其身も立ち、兩親も滿足する、父兄も喜び且つ幸福てあると云ふやうな事柄になるのてあります。即ち孝は自然の則に從ふと云ふ事てあります。

それは何う云ふ事を指すのかと云ふと人間と云ふものは活物てある、死ぬると云ふ事があります。けれども生れた時より死ぬる時までは五十年、百年、百五十年も間がある。此間此生體を此儘保存すると云ふに就いては、始終務めて避けなければならぬことがある。是も自然に出たのと二つあります。諸姉が生れた時に直に啼く、誰に啼けと敎へられたのですか――。諸姉各自覺えちや居らぬけれども、きつと啼いたに違ひない。誰れが啼けと敎へたのですか、誰が乳を吸へ物を食べよと云つたのですか。誰れも敎へた人は無いが、乳首を出せば直ぐに乳を飲むやうになる。是も宇宙の大原則で此現象は此の如き事をしなければ維持する事が出來ない所から、即ち自然に飲み且食ふと云ふ事になるのてあります。之に次て飲物食物に就いても、親が敎へて呉れるのてあります。是は飲むな、是は飲め、飲ても澤山飲み過ぎるな、是は食ふては毒になる、是は食つても宜いが澤山食ふなよ――斯ふ云ふやうに親が敎へて呉れる。そこて飲食物その他我が身體を處するに必要な物は、過不及なく適度に之を得る事の出來るように、自ら敎を受けることになるのてあります。

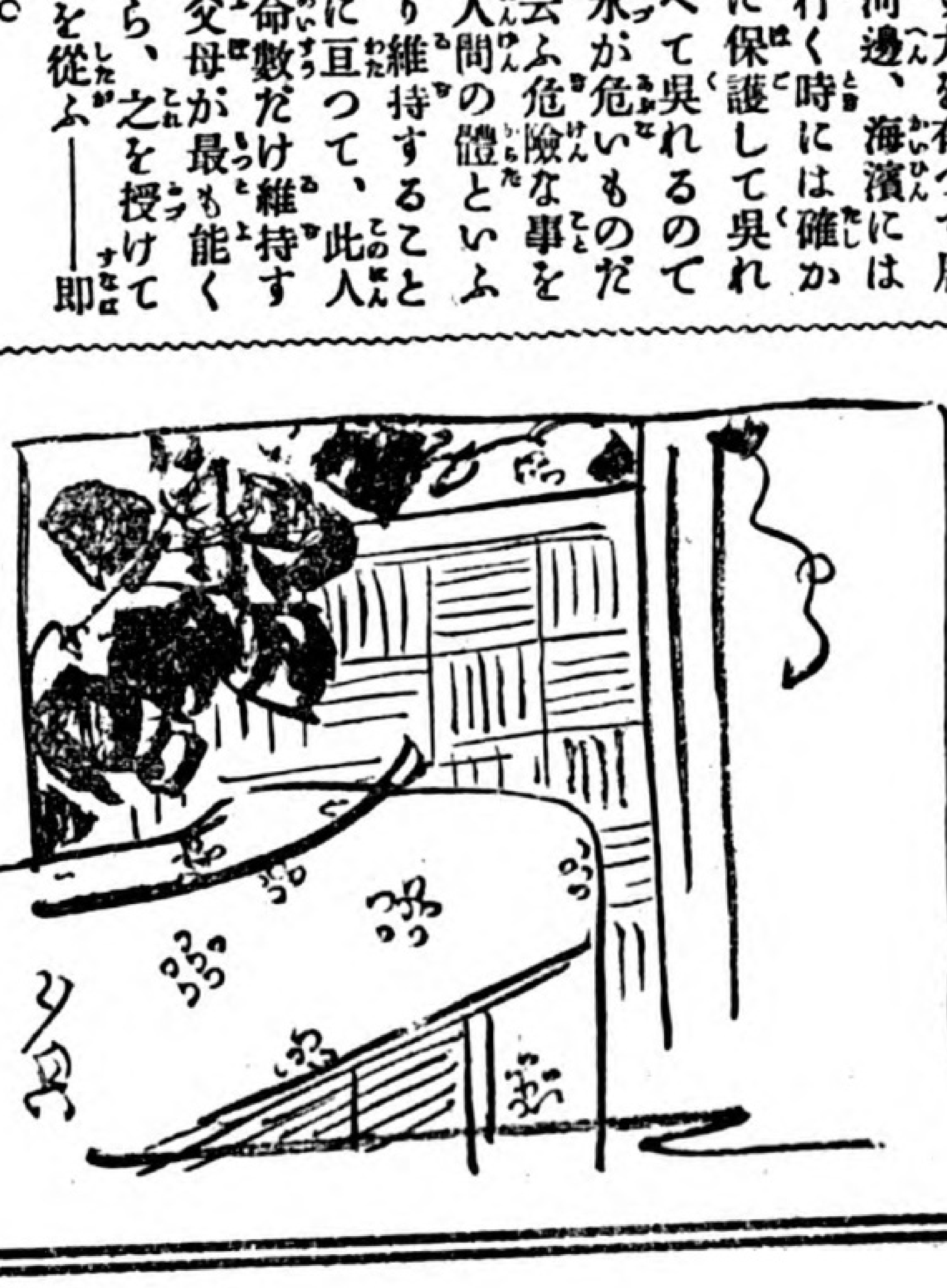
△從は父母の敎に從ふ意

その他天則に從つて、火は物を燒殺すと云ふ力がある。そこて此燒殺す者には人間のやうなものは戰ふことは出來ないからして、火の傍には行くな、火の傍に行けば火傷をして、或は眼を片方潰して終ふ。顏を半ば燒いて終ふ。或ひは手足を燒切つて終ふ、或ひは身體を燒殺して終ふと云ふ事があるから、火の傍には行くな〳〵と云つて、子供の時から諸姉は兩親に敎へられたに違ひない。又、水に行くなと云ふのは如何か、水といふものは本性人を殺す力を有つて居る。それてあるからして河邊、海濱には一人で行つてはならぬ。行く時には確かな友と行け、或ひは確かに保護して呉れる人と共に行けと親が敎へて呉れるのてあります。それて始めて水が危いものだと云ふ事を知つて、さう云ふ危險な事をせぬやうになるから、此人間の體といふ姿を五十年なり、百年なり維持することが出來る。斯の如く萬事に亘つて、此人間の體と云ふ現象を、其命數だけ維持する爲めに必要な條件を、父母が最も能く熟得して居りまする所から、之を授けて呉れる其敎に背かぬことを從ふ――即ち孝と云ふのてあります。

△正直に天則に從へ

其上尙進んて云へば、孝と云ふ事は學校に行つたら能く先生の敎を聽き、さうして夫を我物にせよと親が敎へる。結果としては試驗毎に好成蹟を擧げ、優等生の名を以て親を滿足せしめます。これが親の敎てあります。親の敎へ通りの事をして不孝な子と云ふものは世の中に決して無いのてあります。

が、諸姉。孝と云ふことは仲々容易に出來ないことてあります、仲々難しい事柄てあります。自分達の親は北海道に居る。或ひは長崎に居る。沖繩縣に居る。



滿洲に居る。朝鮮に居るからと云ふやうな考へは、孝と云ふ事に對しては全く無用てあります。萬里の外に在る兩親も學校に遣して置いた我が息子、我が娘が學校に於ける學業の成績好良にして身體健全なりとの報告を得る程嬉しいことは無いのてある。此喜びを爲せるのは則ち孝の一端て、孝の大なるものてある。今日の如く我邦も世界の强國になつた以上は親子兄弟同じ處に住んて居ることは出來ないからして、孝と云ふことは出來ないかと云ふと決して左樣ては無い。世界の何處に行つても孝と云ふ事は必ず出來るのて有ます。

このやうに宇宙の原則に從へ――正直に天則に從へと云ふ事は、我邦に於ての敎、則ち忠孝と云ふ此二つの者が眞の堤を成して居るので、是が即ち堺て有ます。忠孝――正直に天則に從ふと云ふのが此堺てある、壘てあります。壘を兩方に持つて堂々と進めば、所謂大和魂なるものは發達致すのてあります。

これて我が國に於ける孝の敎の大略はお判りのことゝ思ひます。

閨秀百首佳選

（其九）　三宅花圃女史筆　水野淑子作

（其十）　三宅花圃女史筆　林きく子作

（短冊は神田今川小路玉川堂の寄贈にかゝる）

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婉容にして温顔なれ

女子商業學校學監　嘉悦孝子

一、家庭平和に最善なる方法

譬へば美い花が咲き誇り、よしえならぬ匂がないにせよ、人は之を見て樂み、之を折つて床の上に生けるのではありませんか。無情の草木に對してさへ、人は此の通りでありますのに、まして人々相互の間常に、春風吹き渡り、花咲き匂ふ如き有樣でありましたら、如何でせう。其處に呪のあらう筈なく、其處に恨のあらう筈はないではありませんか。

大空がうらゝかに晴れ渡つてゐるとき人の心持ちは生々して來ます。どんよりと曇り、雨しとしと降りしきるときには不愉快を感ずるのであります。人もし相互に沈欝なるさまをなし、或は怒れる如き面持ちをしてゐたらば、其さまを見たる無關係の人でさへ、此上もなき不愉快を感ずる事でありませう。實に人間の心の樣子を考へてまゐりますれば、日常の些細の事決して不注意に過してはならぬと云ふ事に思到れるのであります。

慈善と云ふことがありますが、其はじまりは人を快らしめる事であります。人を快らしめるには、己自ら先づ快くせねばなりません。婉容自ら持す、と云ふ言葉は古人が、婦德の第一義としてゐますが、實に婉容をもつて人に對する事が、人を快くさせる第一の要義であらうと信じます。もしそれ人が不愉快なる面持ちをしましたり、自ら先づ愉快な面持ちをしてその人に接するのであります。

而し婉容なれ、溫顔なれと申しても、或は無理かも知れません。人には各々習癖があり、又は生理的狀態により、又は病氣のため、種々の原因よりして、自ら婉容にして温顔なるは到底出來がたき事と思ふ人もありませうが、しかし乍らそれは其人の修養によりて如何にでもならうと思ひます。習癖は自ら克己心によつて、病的のものは衞生につとめるなどの方法があるのであります。

世に家庭の不和なるを嘆ずるもの、如何にせば家庭を平和ならしめるかと思ひ惱むものは、自ら婉容溫顔の修養を怠りなくする事であります。婉容温顔と云ふ事は、實に家庭を平和ならしめる眞の秘訣であらうと思ひます。

當才百畫選（十三）

渡邊紫雲氏筆

二、怒るな、働け

さて眞に婉容温顔の德を發揮せしめやうとするには、是非とも實行していただかねばならぬ一つの大なる事があります。而しそれは決して困難なる事ではありません。何ぞやと申しますれば、たゞ働くと云ふ事であります。自ら職務にたゞ働くと云ふ事が、唯一の方法と信じます。自己の職務に怠つてゐては、人間は決して愉快な事はありません。よし一時の愉快は事によりては得られるかも知れませんが、それは、頓て恐しい毒物となり、人を滅亡の域に達せしめるやうな事となつてしまふものであります。實に働くと言ふ事は人間が此世に存在するに眞の生命の糧と云ふべきでありませう。

私の見るところを以つて申しますれば、平和を破られたる家庭程、怠惰な家庭である事であります。家人が擧つて各其職務に忠實なるとき、そこにのろひがあらう筈はないではありませんか。一家には主婦には主婦の務あり、家長は家長の仕事あり、子供は學校に行つて勉強する、此間に自己の職務以外に何の思も浮びますまい。小人閑居して不善をなすとは實に千古の金言であります。

いさゝかにても裁縫に經驗ある婦人は誰しも、衣服一枚縫ひ上げた時の心地は云ふに云はれぬ事であらうと思ひます。のみならず何事によらず一事を全うしたるときの愉快は、何とも比べやうがありません。即ち働くと云ふ事と、快いと云ふ事と相連關するところて、働けばしたがつて自ら婉容なるを得、溫顔なる事を得る所以であらうと思ひます。今少し此について私の實驗談をつけ加へてお話したいと思ひます。

圖書俱樂部

■漢和大字典　重野、三島、服部三文學博士監修の下に、九年の星霜を閱して出來上つたものが此漢和大字典で御坐います。紙數二千頁。泰西の辭典中最も進歩したもの丶體裁に則り、漢字を平易に且つ秩序正しく訓釋を施してありまする。字毎に漢音を記し呉音を記し、切之に次ぎ、韻之に次ぐと云ふのが此字典の特色。極に解釋はあらゆる字典を斟酌し、諸種の書史をも參照して、字義の内容を開展し、異義の區別を明確にせんと力めてある處は親切であります。尙ほ又た尋索の便を圖り卷頭に檢索の索引が附いて居ります。此字典は去る卅六年二月發行以來非常の好評を拍し本年に至り第九版の發行を見たのに徵しても如何に有數の字典であるか丶分明のこと丶思はれますから。これ以上詳く此處に說明紹介する必要はなからうと思ひます。正價は革綴金四圓、クロース綴金三圓。發行所は神田裏神保町三省堂。

■女性大觀　近來稀れに見る處の完全した著述て、家庭の人――家庭の主婦、將來に主婦たらんとする人、將來主婦たらんとする人を教育する人、男女を問はず一讀する必要のある好著述と思ひます。著者は目下大阪島之内高等女學校に長たる人、昨年の夏季四旬の休暇を利用して著述したのであると云ふことであるが、九百頁もある此大冊の中に女性に關する重なる問題に就き細大漏らさず大體に渡りて述べてあるのは大觀と云ふ名に反かず、好くもか程の著述を僅か四旬の休暇中に爲し得たものと敬服する他は無いので御坐います。内容は「基督教の女性觀」「佛教の女性觀」「儒教の女性觀」「日本女性略史」「女性の身體」「女性の心意」「男女尊卑優劣論」「女子教育目的論」「高等女學校論」「女子の高等教育を論ず」「女子職業論」「結婚論」「家庭論」の十三章に分たれてありますが各章いづれも必讀の文字であります。殊に文體のすらすらとした言文一致體であるのは嬉しく思ひます。紙質體裁等もよろしく、定價は二圓五十錢、發賣元は大阪東區粉川町百十七番地關東書籍出版協會。尤も此出版協會は最近時に成立つたもので世の名著を最も迅速に最も廉價に世に配布するのが主意で、大賣捌なぞの手を經ずして出版者から直接に讀者に頒つを特色として居り、此女性大觀も直接發賣元へ申込になれば特別大割引金一圓八十錢にて頒つべしと云ふことであります。

本年流行の新製御半ゑり

季節向新色合出來

奧方　御令孃

意氣向き等種々

其一

地色光淋鼠　麻の葉縫模樣

貳圓卅五錢

此の外地質模樣は御嗜好に相叶ひ可申模樣案出せし品いろ／＼

尙御注文品には御紋其他總模樣にて奇抜なる趣向の物有之候

其二

絞り模樣吹寄せ

金貳圓二十錢

特に模樣色合等流行の新製品種々取揃へ有之候間何卒御用命の程願上候

ゑり善

東京日本橋區堺町通ふきや町

電話浪花千二百七十番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

世界繪旅行（四）

布哇―（地上の樂土）

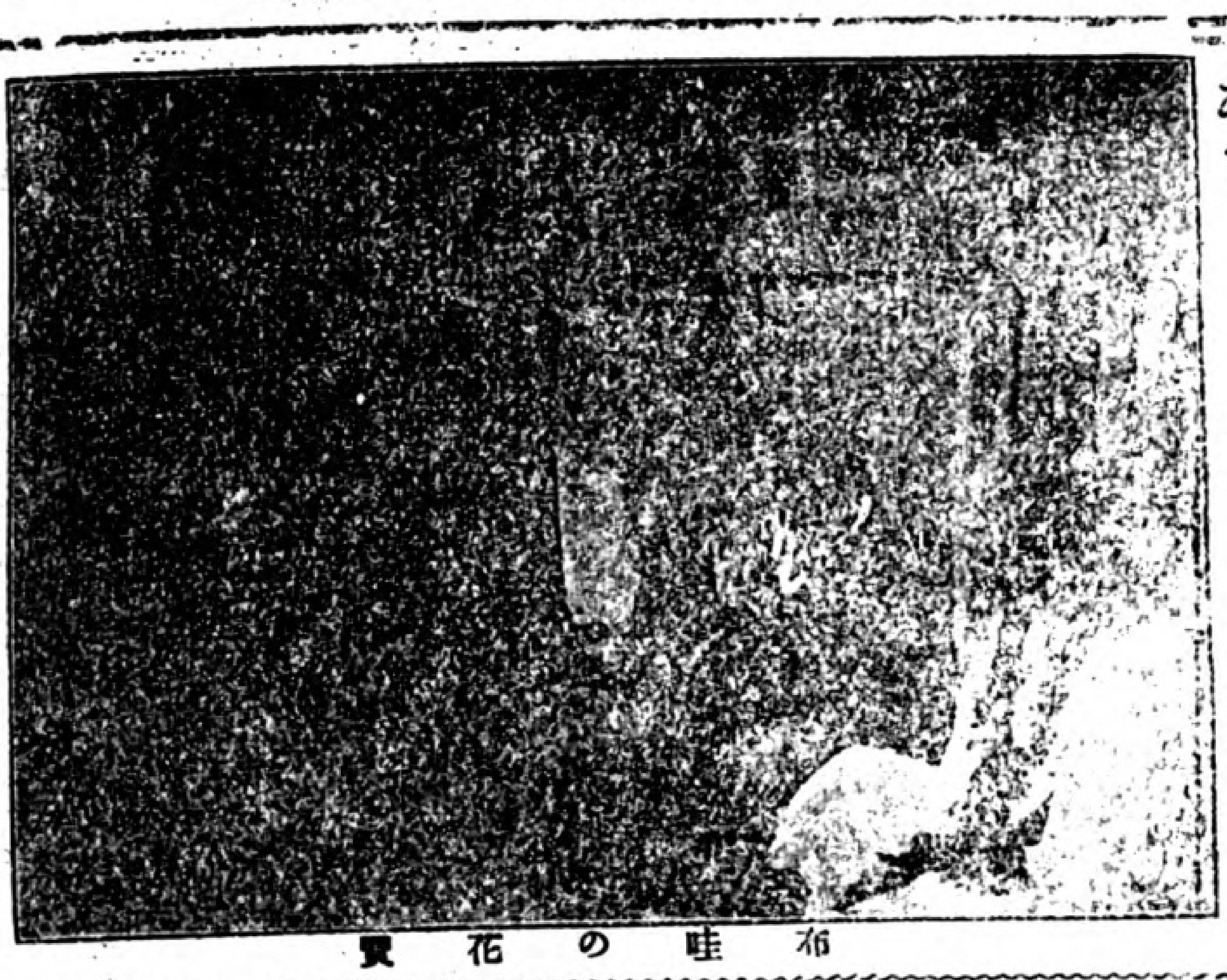
今回は歐羅巴人から『地上の樂土』と呼ばれて居る布哇へ繪旅行を試みる。

布哇は今は亞米利加合衆國の領地になつて居る。

サンフランシスコから二千七百哩ばかり、シドニイ港の東北五千哩ばかりの處に種々の形をした十個の島がある。そのうちの八個だけに人が住つて居るが、布哇島は此八個のうちの最も大なるものである。しかして、此惣てを總括めて布哇と云はれて居る。

布哇と云ふ名稱と共に何人もホノルヽの名を想起すことであらう。

このホノルヽこそは布哇群島中の一、オアフと呼ばるゝ一個の島の都であつて紀元一千七百七十八年キャピテン クークに依つて發見されたのが即ち此島嶼であ。



布哇の花賣

布哇は何故『地上の樂土』と呼ばるゝかと云へば、氣候が暑からず寒からず、年中一樣であり、風景が實に美しいからで斯く風景佳絶にして氣候の一樣な處は此地球廣しと雖も、他には餘り見出し得ぬからである。

布哇は斯く氣候が好い。從つて砂糖、米、珈琲、バナヽ等の産物豐かであるばかりでなく、年中各種の美しい花が爛漫として咲いて居る。これが一の原因を爲したのと、その他に往時鳥の羽を飾りに使つた習慣が今も殘つて居るのが他に一の原因を爲して、花は布哇人の主要な裝飾になつて居るのである。

上段に寫眞版にして此地の花賣りの畫を出してあるが、此花賣が首の周圍や、頭髮の周圍を花輪で飾つて居るのを見ても、いかに此花と云ふものが布哇人の主要な裝飾になつて居るかゞ判る。のみならず、此地の勞働者なぞは、その勞働に從事して居る間でも、首の周圍に花輪なぞを飾つて居る。て、此花輪の長さが時とすると三四尺位になるほどのを作へることがある。されば此地を見舞ふ旅人なぞは、時とすると、一驚を喫するまで、多くの花輪を贈くられる。

布哇が『地上の樂土』と呼ばるゝ理由は此處には七十餘種の鳥類が居ることゝ、これも一つの立派な理由になる。尤も此處に居る動物の主なるものは概して鳥であつて、鳥以外には餘り珍らしい動物が居らぬ。

ホノルヽの街は何に依つて裝飾れて居るかと云へば樹木である。樹木のうちでも主として街の裝飾に用はるゝのは棕櫚であつて、棕櫚並木で街の兩側の飾らるる有樣は何とも云へぬ美觀である。それに勿論電氣燈も點されて居る。その他文明國に在るほどのものは悉く備はつて居る。されば何の布哇なぞと貶しめることなぞは出來ぬ。

それから布哇土人の主な食物は何かと云へば、第一に魚類である。されば彼等は生れながらにして巧みな漁夫である。從つて彼等は主に漁業に從事し、殖産のことは我が國並びに支那からの出稼人に一任して居る有樣である。と云つて、彼等は文明國の勞働者の如く、少しも齷齪して働く樣子もなく、何時も餘裕綽々として至つて安樂に暮して居る。

それから土人は好んでタロと云ふものを食用する。これは我が國の芋のやうなもので、その葉と云ひ莖と云ひ恰度芋莖そのまゝである。土人は此タロでポイと云ふものを製へて食べるのである。右方に寫眞版にしてあるのは、土人がタロでポイを製へて居る處である。

土人タロにてポイを製する處

布哇土人の漁夫

支那料理

成女高等女學校講師　津川千代子

▲清湯江搖柱（チンタンヂャンヨーチユー）

材料　一、貝の柱　一、スープ　一、鷄卵　一、鹽　一、胡椒　一、醬油

これは支那の茶椀盛でございます。まづ貝の柱を柔になるまで茹てて、細にほごしておき、鍋にスープを（一人前に六七勺位の割にして）入れて火にかけ、前の貝の柱を入れて一寸煮て、鹽少しと胡椒とで味をつけ、醬油をほんの少し落し入れ、おかげんを見ます。味は日本の茶椀盛位の味にして、色はこくなく鹽の味で、醬油はぽつちりと入れます。

次に鷄卵（三人前に二個程）を別の器に割つてよくかきまぜ、鹽を少し許り入れて前の貝の柱の煮たつてゐる上に平にまんべんなく流し込みます。丁度日本料理のたまごとじのやうにいたします。鷄卵は直に煮えますから、煮立つたらすぐに火からおろして汁と共に茶椀に盛ります

これはあたたかいうちがよろしうございます。

▲炸裡背（ザーリーナー）

材料　一、豚肉　一、うき粉　一、鷄卵　一、醬油　一、胡椒　一、ラード又はヘット

豚肉の上等のところを一分位に薄く、およそ巾一寸長さ二寸程に切り、百目の肉として醬油一勺程につけおき、十分間程たちたる頃、鷄卵のきみ一個をわり入れ、よくまぜて、うき粉（乾物店にあります）を茶呑茶椀一杯を極々固く水にてとき、前の肉の中に入れ、手にてよくかきまぜ、ラード又はヘットの充分に煮立つた時、肉に粉のよくつくやうにして、一片づつ入れて揚げます。揚がりましたら洋紙か新聞紙の上にとつて油けを吸ひとらせ、一人前に四切五切づつ盛ります

もしうき粉の間に合ひません時は、かたくり粉を代用いたします。

美貌家が最も注意する秋は來た如何に注意する？ 秋季には夏に於て荒されし肌膚を悉く恢復するを必要とす

乳白化粧水『レート』は肌膚の細胞組織から改める美身料で肌膚の荒を恢復するに唯一の化粧品なり

秋の手入に『レート』を忘るゝ勿れ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

兄妹

末摘花

今は昔、獨逸の片田舍に凉子と云ふ少女があつた。家は由緒正しい騎士の末裔て、當時近郊に聞えた豪農であつたから今年三五の春を迎へた凉子の前途は、その天性の麗質と共に、光明に充ちて居たのである。

凉子に一人の兄があつた、顯理と云つて、遠く笈を帝都に負ひ、凉子が十五になつた時、遂に伯林大學を卒業して工學士となつた。

兩親の喜び、凉子の喜び、はた乳人家黨の歡びは實に如何ばかりてあつたらう其時分に大學を卒業したと云ふと、ト訥な村の人々の眼には、大變に偉ひ者のやうに見えたのであるが、夫れも其筈てある。村一番の學者は聖堂の僧侶て、その僧侶は或る田舍町の聖堂院を卒業した而已、また其僧侶が先生々々と尊稱んて居る茶目で髭だらけの牧師、それは毎年夏になると巡廻して來るのて、村の人々からは活如來のやうに崇拜せられて居る其牧師てさへ四年ばかり伯林に留學して漸く神學校を卒業した丈てある。

顯理は十年間伯林に在つて、最高學府を卒業した工學士てある。一家は勿論一村擧つて熱狂し歡迎したのも決して無理はない。

話は顯理が伯林留學中に始まる。彌生なかばの頃てある。野は燃ゆるが如き綠の小草に彩られて、茲の草叢、彼處の樹陰に巣立つ雛鳥、舞ふ蝶の霞がくれに囀れて居る。

世も春なれば顯理も血氣盛んな青年のこと、情交濃やかに行く末かけて末の松山水漏らさじと契つたは、猶太宗の某豪商の愛孃葉末子てあつた。

中央公園のそゞろあるき、伯林郊外の一日はた坦の如き街上の行きずりに束の間の逢ふ瀬、それも過去の思ひ出となつて、遂に顯理は工學士となつた。即ち二人の結婚すべき時は來たのてある。

獨逸の慣習として異敎徒との結婚は絕對に禁ぜられて居た。顯理は葉末子の宗敎を改めさせやうと勸めた。勿論葉末子はそれを承諾したのてあるが、好事魔多し。遺憾いつしかその事葉末子の親族に聞えた。或は嫉むもの丶密告とも傳へて居る。故障は先づ頑迷な親族から出たのてある。

然し乍ら戀は人を盲目にする。狂へる二人はそれ位の障害で萎縮するものては無かつた。

初夏の雨は綠にけぶつて、野に咲く花も人の心も何となく惱ましく感ずる水無月始めの夜、手に手を取つた二人は只管に鞭をあげて馬車を驅つたのてある。二人の顯落付く先は何處、そんな事は二人の顯に考へて無い、たゞ伯林を放れれば宜い頑迷な家庭から離れれば宜い。たゞ其れ丈の希望て月明をたよりにシレシアまて遁れ、遂に其處の敎會堂に於て葉末子は基督敎の洗禮を受けて夫婦となつたのてある。

葉末子の親は顯理を對手どつて少女誘拐の告訴、並に葉末子の搜索願を政府に申請したのて、顯理は捕へられ、葉末子は親の爲に一室に幽閉されてしまつた。話が之れて終れば新聞の雜報種に過ぎない。話は之れからが眼目なのてある。

葉末子は性來餘り丈夫ては無かつた、妙齡の少女としての彼の境遇は餘りに變化が激し過ぎた。深窓に育くまれて十七年彼女の和らかな胸は、男々しき顯理の俤を宿して、花の蕾は眞紅に燃えた。

月の夜郊外に遁れてシレシアに宗敎を改め、結婚後間もなく愛人は頑迷な自分の親のために獄に投ぜられ、自分は幽閉の身となる。僅々三年間の波瀾として決して輕いものては無かつた。彼女は遂に狂してしまつたのてある。

顯理の裁判は嚴かな法廷に於て開かれた。顯理は葉末子の證言によつて、事情は忽ちに明瞭となる、自分は全く晴天白日の身て尙且つ二人は正當の夫婦てあると確信して居たのてあるが、神ならぬ身の葉末子の狂した事を知らなかつた。

狂した葉末子は法廷に立つて、顯理の爲に誘拐され、强迫されて結婚したと陳べた。此樣な悲慘な話が又と世間にあらうか、葉末子の狂した事を知つた顯理の

失望落膽は如何ばかりてあつたらうか。

裁判は確定した、顯理は西伯利亞のある寒地に流人となつて追はれた。

狂した葉末子は顯理の西伯利亞に着いた頃、家人の隙を窺つて自刄した。

話は顯理の妹凉子の事に移る。凉子は待ちに待つた兄の顯理が、歸ると間も無く再び上京してしまつたのて、樂しんて居た都の珍らしい話も聞けず、頗る不平てはあつたが、根が柔和しい兄思ひの事とて、又の逢ふ瀬を指折り數へつゝ、その年も過ぎ次の年も送つて、明くれば凉子十七歲玉の如き容姿は愈臈たけて、都にも稀な麗人となつたが、月に叢雲の譬へに洩れず、憂き雲は天使の如き凉子の胸を蔽ふて此年の秋、凉子には一人の兄なる顯理が流されて西伯利亞に行つたと云ふ凶報を得たのてあつた。夢ならば醒めよと許り地に俯伏し神に祈禱の願を擧げたが、不幸にして凶報は遂に夢ては無かつたのてある。

話が前後するが、此の時既に凉子の母は亡かつたのてあるが、惡い時には惡いもので、間も無く父も沒したのてある。大抵の者なら男子ても氣拔けのする處てあるが、凉子は流石に嚴格な父の子てある、彼女は大勇猛心を起した。家事を擧げて老實な家黨に委ねて、兄の爲に奔走すべく、上京した。

凉子は兄の冤罪たることを信じて居るのて、伯林に出て丶四圍の事情を調べ、それから遙々と露西亞の都聖彼得堡府に行つて司法大臣に歎願書を出した。事情を聞いて初めて顯理の冤罪を知つた判官は大に氣の毒がつたが、既に葉末子の立派な證言もあつて、よし葉末子が狂して居たにもせよ、今は死人に口無く、如何とも爲し難い。兎に角大赦の折を待つより他に方法はあるまい、と云ふのてあつた。

葉末子さへ世にあらば、譬し狂して居るにもせよ、何とか策の取りやうもあらうにと、凉子は今更の如く思案に暮れたのてあるが、不圖心付いたのは最後の手段てある。凉子は露西亞皇帝が皇太后の御殿へ行幸の途上に於て、隙を見て直訴を企てた。之れは成功しなかつたが、此時御供の中にあつた某太公の耳に這入つて、凉子の熱き心を嘉みし、皇帝に申上げて顯理は特赦の恩典に與かることゝなつたのてある。

然し万事不整頓な時代の事てもあり且又茫々限りなき西伯利亞の平原に流された顯理の、はたして何處に居るか、判らないのて、折角の特典も凉子の苦心も水の泡と均しく、無効に終らん氣勢に、凉子が一旦の歡喜は、忽ちにまた憂愁と變つた。

凉子の兄に對する友愛の情は百折不撓てある。世が世ならば身は豪農の愛孃で蝶よ花よと寵しまれ、數多の侍女に侍かれて、荒き風にも當らぬ者を、遂に凉子は兄を尋ねて西伯利亞の寒地に踏み入つたのてあつた。

西伯利亞と云へば今てさへ、文明の光及ばぬ未開の荒野原てある。今てこそ汽車も通へ、其時分の西伯利亞は名も知れぬ毒鳥惡獸の住み處て、背よりも高き草叢つゞき、眞晝てさへ人の影少なき處てあつたから、凉子の辛苦艱難は到底筆や口て述べ盡せるものては無かつた。

凉子は一人旅てある、或時は途に迷ひ山路に踏み入つて狼群に圍まれ或時は惡者の爲に捕はれんとし、あらゆる障害に花の姿も衰へたが、天は斯る純潔な健氣な少女を何時までも惱ますものては無い。凉子の赤き心は天帝の感を動かしたのてあらう。

凉子が家を發途してから五年目、凉子が二十二歲の秋の始めつ方、不圖道伴となつた行商人によつて、兄の居所を知る事が出來た。

凉子は小躍りして喜んだ。行商人の話によれば、顯理は今某鑛山の坑夫に服役して居るのてある。

凉子は直ちに走つて其の鑛山の事務所を訪ね、皇帝の特赦狀を示して、顯理に面會を乞ふた。

話は盡きない、然し此れ以上は讀者の想像に任せる。七年振りて千里の異鄉に兄と妹が相抱いて、如何に喜し涙に咽んだらうか。――（四十一、九、二十六）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

青葉の笛の物語

(上の二)

昔仁明天皇の御時、山城國内裏のあたりに夜々笛を吹くことありけり。

その笛の音よのつねならず類なかりけるにぞ、御門聞しめし、その頃きこえありし有原の中將業平を召して、此笛を吹く物を具して參らせよと宣旨を下し給ふ。中將うけたまはり、たづね給へども其姿さらになし。

中將或夜半ばかりに神仙苑の池のほとりにて伺ひみれども、更に見えず、笛の音きこえけり。

比はなが月十日あまりのことなるに、折ふし月くまなくさえければ、中將笛を取りて忍び近づき見給へば、笛の音は聞へ主は更に見えず。

中將不思議に思召し、若し魔變化性のものやらんと思ひながら、我は御かどの宣旨を受けたり、魔化性のものなりともいかてかたぶらかすべき。その上中將なれば、しんめいもかごひたまはんと、深く祈誓を申し、笛の音にまかせ、我も音をあはせ笛をふき行き給ふほどに、西の朱雀より日づかまで行きけれど、笛の音も聞へず、主も見えずして夜もほのぼのとあけゝれば、中將力及ばずして内裏へ參り、そのよしを奏し申さるゝに、いかにもして尋ぬべきよし、かさねて宣旨を下さる。

☞懸賞新題を御熟覽☞

極面白い懸賞新題

これがお待ち兼ねの「懸賞新題」であります。今度のは極く極く易しいのですから何人にもお解りのことゝ思ひます。題は上圖の即ち判じ書てす。判じ當てた方には悉く『女德論叢』一部づゝ差上げます。

但し此の締切は十月の十五日です。

應募さるゝ用紙は端書へ、例へば『彼の子は何人の子』と云ふやうに認めれば宜しいのです。

極容易い懸賞新題

雜錄

△今年の暦△

十月(大)
October.

日	S	..	4	11	18	25	..
月	M	..	5	12	19	26	..
火	T	..	6	13	20	27	..
水	W	..	7	14	21	28	..
木	T	1	8	15	22	29	..
金	F	2	9	16	23	30	..
土	S	3	10	17	24	31	..

△古今歌人大祭 大日本歌道奨勵會主催となり國學院、皇典講究所、神宮奉齋會聯合して本月廿五日九段靖國神社境内能樂堂に於て古今歌人大祭を執行すべしと云ふが此祭神たるべき人々は蟬丸人丸等の古今集時代より近くは過般物故の小出粲氏の如きに及び其數約一千名の多きに及ぶ由にて奨勵會は當日更に大會を開き右大祭の爲め各宮殿下より賜はりし詠草其他正式披講式を執行すと、

△女子大學の通信講義 明年四月より日本女子大學にては最も完全せる通信講義錄を發行する由にて右披露の爲め及び他當事者の之れに對する意見を求むる爲め去月中旬新聞記者及び雜誌記者中の重なる人々を同校に招待午餐を饗し且つ同校内を巡覽せしめたり、同日は同校幹部の人々出席接待せり。

△一匹の蠅の生む卵數は百五十 一匹の蠅の產む卵の數は百から百四五十であるから其の繁殖の盛なることは大したものだ、卵は夏の盛りの時に十二時間經過に孵化して蛆となる、蛆には眼も無ければ肢もない、白色圓筒狀の形をしたもので、うごく\/と蠢めいて居ります、そして口ばかりは非常に達者で腐れた植物性の物體や、紙屑、綿の片などを食ひ、其生長は極めて速かて蛹になり蠅の形に生育するまで早くて五日より十日を要します、蠅は一生の間に一度ならず二度も卵を產み、其一生涯は頗る短いもので、一年の間には十數代も更代する者と云ふことである。これは本月の衛生新報に在つたのたが面白いから轉載した。

△鳴く蟲のいろ\/ あるうちにも、面白き面白からざる懸しき懸しからざる仲々面白くして研究の値がある。が、すべて鳴く蟲は雄は如何にも愉快げに鳴くが雌は只だ默つて聽いて居る。雄は美聲を以て雌を呼ぶので、つまり鳴くと云ふことは生殖の目的を遂する一の武器だと云ふことであります。面白く思ひましたので餘白ふさげに鳥渡揭げました。

第二圖書クラブ

□婦人職業論 伊賀法學士の著、職業の意義、職業の種類、歐米に於ける婦人の職業、吾人に於ける婦人職業、近世に於ける婦人職業增加の原因、婦人職業と男子職業との關係、婦人職業の得失、婦人職業の將來の八章に分ち、附錄として吾現行法と婦人職業の一章が附いて居る。有益の著述である。今回大阪市東區粉川町百十七番地關西書籍出版協會から發賣さるゝことになり、特別大割引金七十錢にて頒つと云ふ。

□化粧のをしへ 前號雜錄欄に前に紹介して置きましたが、こゝに該書石鹼の條を御紹介致します。化粧用として最もよきは白色曹達石鹼で、オレーフ油或は扁桃油から製したものが第一によろしい。豚脂及牛脂或は椰子油から製するものもある。化粧用として苛性加里を以て製した軟石鹼を用ゆる人もあるが、曹達石鹼を以て最も佳とする。石鹼製造者は香料の方に重きを置て其質を吟味することに氣を入れぬ者が多い。殊に佛國製のものには香がよい割合に實質のよくないものがある。英國製のものはこれに反對で香には重きを置かず精良なる原料を用ゆるの傾がある。云々。

□最新思潮講話 坪內、三宅、丘三博士及び金子筑水、島村抱月二氏の各方面に對するとり\/に有益な五講話を集めて一册にしたもので御座います。三宅博士の宇宙觀、金子氏の現今の哲學、丘博士の雌雄の起源及進化、島村氏の近世美學上の問題、坪內博士のハムレット講話、いづれも文藝協會第一回夏期講習會の砌の筆記で御座いますので、いづれも極く\/通俗に面白く講話が揭げられてあるのは此書の特色と思ひます。「非情の物も眠るといふ眞夜中過、氷のやうな一痕の寒月が凄じいほどに中空に冴え渡つてゐるが、見渡す向ふの海原には一面に濃霧が立籠めてゐるので、天も海も一色に、只もう蒼茫と煙つて見えるばかり。あたりに山も森も見えぬ。すさまじい荒浪が響告ても與へるかのやうに、時々岸頭へド、、、と打寄せてはザブリと碎けて、ト、、、と戻つてゆく音が聞える。外には何の音もしない。」……これはハムレット講話のホンの一節で御座いますが、全篇先づ此の調子に面白く讀まれる講話集と思ひます。定價は金一圓京橋區南鍋町一丁目隆文館の發兌で御座います。

□日常智識 この書のことに就いては前號雜錄欄に誌して置きましたが、大分好評を拍して居るとのことです。左に本書卷末附載金言の一二を紹介する。

人を尊敬すべし人を侮るべからず
人は境遇によりて其の實驗をつむべし
人の長たらば恩威の二に依り服從せしめよ

今流行せる東髮さし

銀製七寶入　金貳圓三拾錢

銀製寶石入　金五圓拾錢

其外種々新形有之候尙又御好みに依り調製仕候

最新意匠　瓢指環

十八金製ヒスイ應用　金參圓八拾錢

右は目下貴婦人令孃を始め黑人筋に非常の好評を博したる最新形に有之候間其の流行にもれ給ふな

治

東京日本橋人形町通り
澤田治助
電話浪花二五六九番
振替貯金一一二七二番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

美顔料　パール　東京濱町　平尾分店

和歌　佐々木信綱選

—春季雜題—

天　下野　里須菊子

老ませる故郷の母いかならん朝戸出さむし今日の初霜

評、遠くはなれし地にありて古里の母の上を思ふ天眞の情つくりかざらぬ詞の中に慾こもれり

地　熊本　竹下かしく

大方の世のかなしみを身一つにつゝみかねてや君は逝きけん

評、幸うすき友の上をしのびしなるべしあはれなる歌

人　東京　秋花菊子

すや〳〵と母にもたれて眠る子の頬をてらしぬ秋の夜の月

評、可憐なる作

秀逸

軒端ふく夕風寒くなりにけりとき洗ひ衣いさやぬはまし　山口　末田貞節子

雨晴れてひときはさゆる日くらしの聲に暮れけり山の下露　三重　荘司種子

てる月の影さへきよきくさむらに聲ふりたてゝ鈴蟲のなく　三河　山内經子

なかき夜のわすられぬまゝにおきいてゝ浮世の外の月を見るかな　山口　末田竹子

名にしおふ嵯峨野の奥を尋ぬればむかし語ふ蟲のこゑ　三河　豐江とよ子

冷やかう笑みしかた樹に思ありや菊ながめます美しの人　讃岐　瀬高やす子

磯山に登りて海の月みればこゝろもひろくすみにけるかな　堺市　全田久子

籠の内の蟲はかりかは世わたりの身の秋になく翁なりけり　長門　嶌田眞子

おのかしゝこゑふり出てゝ啼く蟲をわすられぬ夜中の友とこそきけ　岐阜　小島駒子

契ひてし友は來らずたそがれて遠く消えゆく追分の節　佐賀　野田春惠

いしふみもおほふはかりのかやすゝきそよぐ葉末にほたるとふなり　越後　歌川みちの

江のしまのいはやの橋をわたる袖にすゞしくもふくなつのあさ風　東京　飯塚きよ子

甲

月きよく菊の香たかきこの夕べもたへある身の思ひ出おほき　讃岐　高瀬やす子

只一人思ひにしつむ今宵しも鐘井はるかにかりか音そする　岡山　清水梅子

おちこちの山の木の間の初紅葉たが織かけし錦なるらん　三重　西山數子

きみか上おもふがことく君もまたおもひいづらん望の夜の月　堺市　全田つるえ

高殿もしつかふせやもおしなへてくまなくてらす秋の夜の月　京都　富田眞壽

山里の秋のなかめそ奥はしき千草百草野邊をかさりて　大分　靜子

今日の月こゝろうしとてそむきつゝもなどぬることの惜まるとらむ　東京　小田ゆかり

そと摘みてかさしの花とかへり見ぬ露の野菊の色香深きに　廣島　全原直子

草むらにつゆのみ置てよもきふの庭にさやけくつきそいてける　横濱　鈴木まつ子

こゆるきのいそのまつ原このころは汐あむ人のゆきゝしけかる　東京　飯塚きよ子

咲く萩の垣根にすだく虫の音のそゝろに淋し秋の夕くれ　岡山　西村きよ子

秋草の中にまじりて來すゝきまれけとそれと來る人もなし　青森　田島正子

むしのねをほのかにきゝしわかれやのかへのあたりにおくかとそもふ　東京　三宅久子

汐あふる人はつとへと須磨の浦さすかに渡る秋の風かな　失名

なくこゑはさやかにきけと夕きりに行方みわかぬかりの一行　よれ女

この秋はともにめてんと思ひしを月はすめとも君はいまさず　岡山　西村長子

擧の音のしらへや松にかよひきて一人さゆる秋の夜の月　神奈川　足立原とく子

われかとていさとふらはんつゆしもの秋のなか夜をまつむしのこゑ　東京　鈴木秋子

あやしくもおもひけるかなさやかなる月にむかいておつるなみたを　横濱　鈴木まつ子

芒野をとぼとぼたとる巡禮に夕月さしてこほろきのなく　岩代　久野芳子

こその秋友とあそひし萩の庭月より外に見るひともなし　岡山　西村きよ子

こかれさく秋はたのしきものなるをなとかかなしきものといふらん　兵庫　古館ひさ子

乙

鈴虫やみはとらはれのかごのうちおやは草葉の蔭てなくらん　呉市　竹入勇子

しろききぬぬきて間もなくうすつきのたちぬひせわしはつ秋の頃　甲府　加藤千代子

秋風に桂の花はほゝゑみぬ吾妻の妹にいでや贈らむ　三重　西山ひさゑ

うそ寒き庭のまさきの朝顔に今しも落ちんしらつゆの玉　横濱　上杉ちく

くれやらぬ日をもとかしみこほろきのかけにさゝめく秋の夕暮　京都　田中久惠

八千草の花さき匂ふ秋庭をこゝろしてふけ園の夕風　仝　仝人

枝豆のからのみ山とつもりけり心あひたる友とかたりて　愛知　渇淺とよ子

月きよみ虫のしらへも妙にしていぬるになしき秋の夜半かな　東京　清水まつ

中庭のかなたを越えて咲きにけり日毎に待ちし黄菊白菊　岡山　坂田元子

しけりあひてかせさへうとき老松のこすゑにたかしけふの夜の月　函館　五十嵐やす子

冬物新着　羽蒸團膝掛　ボアーマフ　御婦人小兒　用帽子色々　手製靴下類

リボン造花　小間物化粧品　其外御進物適當品種

東京牛込神樂坂　朝日堂　電話番町一六九九

新小說　拾月號　（東京　春陽堂）　實價二拾七錢五厘

▼女優…柳川春葉　●北の冬　小川未明　●十三年　小山内薰　●善坊…鹽井雨江　●脚本兵衞佐伊豆日記　井平蕉雨　▼隣の辨　明　風葉　文學と處世難　志願　宇宙外宇宙は可解　松本博士　天溪と抱月　中島孤島　●訥升の襲名　默庵　新興國　銀月　●我國民性の立場よりクラッシシズムの意義を論ず　田中喜一　▲好きな女　小杉天外　●蘆の葉づり　鏡花　▲珍　草通　饗庭篁村　獨逸劇壇の退歩　片山孤村　●鬪球　樋口龍峽　▲義太夫物語　右田年英　●家庭の觀念　扶桑女學某長　▼盆栽の造り方…佐治實然　化粧　水藻　▲米國人と勞力　嵯峨の舍　●天理敎研究　嘯月　●見たまへ　記春月

各位御令孃淑女方平素御理想在せらる時好の嶄新奇拔なる大模樣刺繡ゑり絞り友禪染總絞り形ゑり帶揚類其外考案新薄色染等大改良の途に漸く相運び冬物取揃有

季節用　博多　肩襦袢　裏襦袢　伊達卷　長襦袢　シヨール　ネクタイ　下帛紗

半ゑり　帶上類　雅致と高尚優美生粹

新橋本店　ゑり治　神田支店　ゑり治

十月の少女の友は何故日本一か

▲少女を…　▲立派な婦人に　▲育て上…　▲たいと思ふ兩親は必讀…

少女の友

▲珍奇な大懸賞あり（十分間にお手玉か幾つ取れますか）

◎粗服を氣にしない感心な生徒…女子高等師範敎諭後閑菊野

◎旅行中の親切友達を感動せしめた少女　星野水裏

◎冒險奇談山賊の娘

◎面白ろきアホー鳥　理學士飯塚啓

◎小說縮緬の着物

◎盲目娘の爲に曲を彈じたる音樂家

十月一日發行　◎壹卷第九號　一冊拾錢郵稅壹錢　六冊郵稅共六拾錢　十二冊壹圓拾六錢

婦人世界臨時增刊　十月十五日發行　婦人の慰藉

▲獨身婦人の慰藉　▲寡婦の慰藉　▲處女の慰藉等一讀憂欝を慰むるの大文字

定價十五錢郵稅一錢五厘

大飛躍の本誌は婦人界の大問題を悉く解決す

婦人世界

十一月一日發行三卷拾壹號　一冊拾五錢　郵稅壹錢五厘　六冊郵稅共九十錢

▲婦人は如何なる男子に嫁くべきか…村井弦齋

▲義歯は如何に取扱ふか…志村

▲日本婦人を初めて見て驚きたる米國女學生

▲姙婦の頼むべき醫者　榊醫學博士

▲子供の遊ばせ方…岸邊幼稚園長

▲五十錢の總菜料理

▲文藝問答

▲西洋婦人の結婚法

▲弦齋夫人料理談

▲私の娘が成長せば如何なる人に嫁入らすか…三輪田元道

▲文學士を養子にし失敗せし寡婦…西田止敬

▲十五人の子供を育て苦心…服部金太郎氏夫人

▲私の夫が高等官をやめて炭屋を開業せし話…猪越清

▲訪問して愉快に感じた事…泰氏

▲閨秀畫家野口小蘋と跡見玉枝　面影

▲私の讀書法は如何…大塚楠緒子

▲注意すべき小兒の百日咳　醫學博士加藤照麿

▲懸賞當選わが家の實驗（皆有益）

▲婦人茶話　名家結婚珍談

▲袖口の縫ひ方

▲懸賞募集十餘

▲本號には婦人服の裁縫懸賞募集あり

東京京橋南紺屋町十二番地　（電話新橋七八四）　實業之日本社　（郵便振替貯金三二六番）　賣捌各地書店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新體詩

編輯局同人選評

一等　熊本　かしく

石

戀か咀ひか星落ちて
かたち清げの石と化り
野の花かげに輝ひしが
心なく拾ひし少女
そのゆふべ死きとよ。

評。作者の寄せられしもの三篇「靜夜」も佳作たるを失はず。此篇神話の一節に過ぎざれど簡潔にして然も餘韻あり。

二等　因幡　橋浦美喜

蘇生

才なき身には麗しき此の一花よ
あな野菊北野の果の片つ邊に
人見返らぬ隙を咲く輪廻ぞ白き
汝も我、おなじ運命に身は一つ
さはれ汝が匂ひ香の枯れ行く野邊に
漂よひて霜に痛まぬ嬉びを
生るゝ朝日に快樂の露の七彩
甘き香にあゝ甦る。我は少女子。

評。蘇生と云ふべし。

三等　讃岐　瀬高やす子

愛の宮――

へだての垣をこさんには
あまりかよわき我が力。
日ねもすの煩悶につかれ
まどろめば
夢にも入るをゆるされぬ
常夏のはらゝゆらぎに
亂れし胸の淋しさよ。

評。才藻喚發春泉の如し。

佳作

新潟　佐賀　野田惠惠

嘆きに暮れて夜はふけぬ
涙の床にわれは入る
いたつきねぶる母人の
やつれし影をながめつゝ
せめて果敢なきものならば
一夜をやすき夢に入れて
せつなりとも笑ましめよ
斯く祈り佛拜みぬ。
ああされど寢返りそうつ
母人の咳の冷たさ。

評。語辭眞摯にして覺えず讀者の襟を正さしむ。

雨の夜　東京　小田ゆかり

ほと〱といとしのびやかに
おそる〱ともしかざしつ
白壁のかげわが影を
嘲みつゝうちほゝゑみぬ
ともしびのかげふと消えて
戸の隙を洩れくる風の
なにとなうたのみすくなく
ほと〱とさきにもまして。
玉水の音もにじみて
ひやゝかにしぶき面うち
ちゞと啼く虫のあえかさ
影くろき二葉まひ來て
ほと〱と戸は音たてぬ

評。もつと簡潔に歌つては如何でせう、內容に比して聯句が多すぎるやうに思はれます。

春　東京　山本富子

優しき匂ひ雄々しき香
斯くこそ君をたゝへつゝ
行きずりにしもかへりみぬ。
たゞ一日、ああ一眼、はかなき縁
とてしへの別れ。雄々しき一人の
忘られぬこそ口惜しき。

評。作者のは餘り露骨でした、試みに斯様に衣を着せて見ました。

秋の夜　岡山　八木清子

風うら寒き中秋の
さまよひ出てし此夕
當なく堤さまよひて
ああやつれたる姿かな
月のみ清く輝きつ。
月の光にさそはれて
思ひ亂れて只一人
水にうつれる影みれば
昔かはらぬ色にいてゝ

評。瑕なき作なり。

秋の野　京都　田中久惠

紅葉染なす秋の山
景色うれしき秋の野邊
來れば亂るゝ女郎花
そよ吹く風も風情あり。
空をあやとる夕雲の
招ぐ薄にまれかれて
萩の錦のとり〲に

評。餘韻に乏しきを憾みとす。

秋の夜　廣島　金原直子

砧の音のいと遠し
誰がため懸けて急ぐらん
やよ待てしばし雁よ
包むにあまるわが胸の
遠方人に送り屆けよ
秋は最中の月の夜に
高空わたる雁一つ
我もゆだれん文あるに
愛を寫せる此文を

評。郵便と云ふ便利なもの〻出來たる今の世に、雁に頼まずともよかるべし。

選外佳作■秋の日　清水梅子■秋閑居　鈴木松子■秋の夕　西村長子■村の夕暮　山徳秀代■機關兵　西村數子■日くらし蟬　佐野國子■（△印は就中秀逸）

活辭典

第九版　三省堂編纂　漢和大字典　定價上製四圓　並製參圓　[illegible]

第三版　三省堂編纂　國漢文字典　定價六十五錢　郵税不要

第五版　三省堂編纂　漢和新字典　定價壹圓　郵税不要

第二版　金澤文學博士編　辭林　定價貳圓　郵税拾六錢、清韓四十錢

イーストレーキ先生　棚橋文學士　共譯　ウエブスター氏　和譯字彙（五十三版）　定價貳圓四拾錢　郵税不要

ブリンクリー先生外諸先生編　和英大辭典（十二版）　定價二圓八十錢　郵税十六錢

今茲に掲げた辭書はどれも世に評判の高いもの計り、精確堅牢廉價で重寳に出來て居る、近世活用の語句を網羅し學生諸君には教科書自修の好師範となり、學者教育家實業家等苟くも學務に趣味を有せらるゝ者には至便此上なしです、此の他尚種々の辭書あり、目錄について御覽下さい、御用向は東京神田三省堂書店（電話本局七二、振替貯金口座一五九七）に申越ありたし

第廿一版　神田男爵外五博士共編　新譯　英和辭典　定價九十錢　郵税不要

第七版　新渡戶博士　高楠博士　共編　新式　日英辭典　定價壹圓　郵税不要

第十二版　高木甚平先生　保志虎吉先生　共編　袖珍　獨和新辭林　定價八十錢　郵税不要

第三版　イーストレーキ先生遺著　英和　熟語慣用句辭典　定價壹圓拾錢　郵税八錢

麝香獸印　ムスク香水

大瓶　壹圓
中瓶　六十五錢
小瓶　二十五錢

●芳香の永く保つ點にて高評也

類似品を販賣する者あれば御買求の節は右瓶の形狀及び一二頭の麝に御注意を乞ふ市內賣藥小間物化粧品店に於て販賣致し居り候

東京日本橋本石町四　松澤常吉

女子文壇　十月號發刊　價送共拾壹錢

此雑誌を讀まざる女子は共に青春の文學を語るに足らず

●毎號正金懸賞各種作品募集

發行所　東京京橋　女子文壇社　實捌　全國書店

女子文壇臨時增刊　文壇の光

●定價貳拾錢　郵税壹錢半　十月十五日發兌

紙數二百五十口繪作家肖像其他　內容は既刊「文壇の花」に仝じ見よ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

俳句

秋季雜題　內藤鳴雪選

天　名月や我が戀ふ人は月の中　東京　鈴木榮子

評　不死の藥を得んとは僭上

地　晝合やかむろが提げし小提灯　會津　久野芳子

評　尾花にまじる妹が影

人　鳥白く岩に群れたり秋の海　京都　安井千勢子

評　空は一朶のはやて雲

佳作

ものはかな二本芒かげ長く　東京　小田ゆかり
名月や水田にうつる鳥の影　東京　牧野元子
一人立つ小川の橋や朝の霧　東京　栗田ふさ
ころころとこほろき鳴くや流れ星　東京　竹野秋子
夕顏に鷄が巣に入る羽音哉　東京　秋花菊子
青簾懸けて客待つ月夜かな　大分　靜子
山畑や松が下なるそばの花　長門　藤田眞子
虫とまらんとして廻り燈籠哉　三重　西山きよし
寺町を淋しう照らす秋日かな　東京　武田鶴子
白露に草を刈る手の雫かな　佐賀　野田春惠
澄み渡る三十三天今日の月　下野　黑須輝子
秋雨のふるき小籬やうづら鳴く　つゆ緒
鮎釣りの日暮れて戻る磧かな　下野　黑須菊子
窓の灯の簗關に洩れて蚯蚓啼く　岡山　西村長子
浦風や吹き寄る波の音　三重　莊司種子
「夏[illegible]のだら〳〵坂や月涼し　東京　栗山てい
秋のあるじ若き切り髮したりけり　東京　松本保子
名月や蓮の上に村の衆　橫濱　上杉らく
名月や今宵を舟に宿らばや　東京　栗田ふさ
秋風の芒に[illegible]る月夜かな　東京　鶴岡とく子
夕陽の浦や月もちり〳〵に赤蜻蛉　備後　妹尾常子
廣き野をどこ行かん今日の月　岡山　坂田元子
對すればうき事多し秋の山　熊本　かしく女

雜報

○光琳式模樣　三越吳服店にては來る十月一日より第十六回新柄陳列會を催ふし兼て當春以來懸賞を以て募集中なりし光琳式明治模樣、圖案を陳列し尙ほ參考として光琳派美術品及最新流行の諸雜貨類を陳列する由。抑も先光琳式模樣は、光悅、宗達に胚胎して光琳に至り大成せる本邦美術の精華にして今や歐米に於ける斯界の注意を惹き美術に工藝品に續々應用せんと試みつゝあり我國に於ても元祿、桃山の如き雄偉なる模樣戰後の人心に投じ大流行を來したるが近來諸般の秩序漸次整ふと同時に光琳の如き高尙優雅なる意匠を歡迎するの徵候あるに付き多年光琳模樣を研究せる三越吳服店にては茲に光琳式明治模樣とも稱すべき光琳模樣の大成を企畫し今回遂に優美高尙にして現代の嗜好に投合せる頗る雅致ある者を製出するに至れり。賣出しの上は定めし大好評を以て歡迎せられ光琳式模樣を現出する事なるべし尙ほ同店にては京都妙顯寺內なる光琳菩提所の永代保護者となり近日先づ同店內に於て盛なる光琳祭を行ふ由。

○御園おしろい　一般お白粉の數ある中に皮膚の色艶又は其の用途に依りて部類分けに且つ實用的に製造せしは東京芝「胡蝶園」である僅かに本邦化粧法の促進者と云つてよい又其の製法學理にかなひ實用に適し親切なる製法と認めらる發賣東京　日本　區檜橋町丸見屋

大日本化粧品は益々販路を擴張せり

大韓國皇室の御料品とクラブ洗粉の光榮

大日本の尊き方々より常に御用を忝ふせる
クラブ洗粉は如何なる洗粉よりも優越せる事を
光榮ある近き此新事實に依て重て證明するものに御座候

本年七月八日(隆凞二年七月八日)
大韓國
兩陛下の御料としてクラブ洗粉を畏れ多くも
大韓宮內府に上納し奉りたり尙宮府の
大官宮內大臣閣下 侍從院卿閣下の兩御家
庭に於ても日本のクラブ洗粉を愛用せらるゝに至れり

謹啓

小生儀本年七月東京盲啞學校失明軍人講習會部を卒業致し左記に居住、專ら西洋マッサージを以て同情ある江湖各位の勞顧を請はんとす遠近を問はず御一報次第御用命に應ず

元東京盲啞學校內失明軍人講習員　大久保清太郎
マッサージ鍼治
東京淺草山谷町廿九番地
電話下谷二九九五

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

短文　編輯局同人選評

一等　京都　つゆ緒

白川少女

京は山ふところの秋も早う、軒の靑簾ひきまもる風もや丶寒の昨日今日は、唯露白き市中を色さま〴〵の草花束ね、紅のたすきに白脚袢やさしく履み出す少女姿ぞ夏の名殘の華やぎなる。折柄の朝月に露ほの〴〵と明くる時、鈴蟲の鈴はり上る聲にこきまぜ、花召せ〳〵と呼びありく行ずりの花の香たゞならず、そと控へて言問へば、白河の里なまり愛らしう、名は露草のつゆと答へぬ。

評。麗はしき書き振りなり。後半ことに勝れたり。

二等　東京　小田ゆかり

十五夜

どうかと心配した空は晴れて來た、黑い雲が右から左へ月の面を流れる、黑い雲は漸々薄い雲と代つて月の後を通るやうになる。遂に杜絶えると月の面は澄む。姉様お十五夜様の月は圓いわネ、と可愛ゆい妹の言葉、妾より母様が先に頰擦なさる。今年十五歳の人は運がい丶と母様が仰しやる。嬉しくてたまらない、庭に下りると譲葉の露が袖に落ちて月が宿るあの澄んでる淸い月が袖に。

評。實にオ。敬服々々。

三等　岡山　西村長子

御許に

去年萩の野に御別れ參らせてより、朝露のまよひは今だに晴れず、心つくしの月日も早や一年、いて思出に庭の異萩に置く露の月もやどりし美しき花の、一片二片を文にこめても送りまつらん、蟲の音添へたらましかば、一入の色深からめとも思へど、さて如何せん、たゞ忘れ給ふなとのみ、かしこ。

評。熱き心の籠りたるを撰る。

佳作

吟鳥　因幡　横濱清美子

今宵限りませし計の姉君、旋息かすかに蚊幬の内は靜かである、あな痛ましき破鏡の運命、歸るなと仰せられし父君は早や此の世にいまさで、居たくも居られぬ理ありての離緣、可愛の初兒の世を去りて三週年の今日のありさま、せめて母上にても居ますれば。姉さんお察し申しますよ、熱い涙を拂つて戸を一枚繰た十三夜の月は冱え切つて居る。

評。氣取つた氣味があるのでいけない、飾らないで御書なさい。然し技巧を無視しろと云ふのではない。

更けゆく夜　東京　佐野くに子

多摩川の流れはきのふとかはられど、譲りにかはるは我が身かな、明日よりは異郷の空にて、甲武線の汽笛にさぞや夢をやどすらんと思へば、今宵こそ名殘の故里、夜ぞながゝれと祈るもはや更けゆく鐘に虫の音のかごとわりなしや。

評。すぐそれだから日本の女はいやだ、と洋行歸りが突込みます。異郷の空は餘りに美々しい、高が東京府と東京市の差異ではありませんか。

柚うりの聲　佐賀　野田春惠

添乳して小兒を寢かして居ると、こんもり茂り合つた高の梢から肌寒い風が、軒先の風鈴を音づれて、枕元の風船玉をするくると次の間へ運ぶ。五月蠅い蠅に付き纏ふて來る蚊を團の捻りで打つけ乍ら、縁の柱にもたれ懸つて、美しく咲きこぼれて居る、萩の花に見恍れて居ると、東の方から小路つたひに若々しい物賣の聲が、吹き通す風にさへぎられて、とぎれ〳〵に聞えて來る。

評。風情の流露せる文なり。

今日の一日　横濱　上杉らく

久しぶりて朝からの好天氣、今日は脱物やら洗濯やらの世話しさに追はれ、夕暮は例に依りて水を汲んだり掃除をしたりして夕飯もやつと終へた、先づ之れてとっ息つく間もなく又も客來て、今漸うたすきをはづしたばかり時は最早や十一時、愛らしい〆〆は向ふの座敷の隅て、玉のやうになつて心地よげに眠つて居る。

評。主婦の勤めも亦多忙なる哉。

蛙聲　下野　黒須濱子

田川の橋より五六間上なる異家かくれに二聲三聲水鷄の啼きいてゝやみぬ、蛙よ蛙よと唄ふ予等の聲につゞきて、小田のあなたに切よとよぶ母の聲おとうさん蛙……歌はと尋れ顔なる黒川の水音。

評。スケツチの上乘なるもの。

○　三河　山内謙

許し得し日も今日限りなればとく起きて荷物などつくろひ給しに、祖母君は今御つとめすみてか、孫子かた手に今一日と切にとめ給ふ、母君はさすがに我が身の上をおしはかりて祖母君に何事か囁やき給へば、やうやうにうなづきて、またのうと涙ぐまれし御悅のまたも思ひいでられて、熱き涙はとめどなく頰を傳ふて針もつ我手のわななくぞ、わりなしや。

評、女心はさもおはすべし。

異郷の月　岡山　入木清子

庭の秋草は淸き月影を露にやどしてこぼれなきする虫の音細し、思ひなき身には明けきながめならんも旅枕故里を思ふ妾の身にはよくも止まらず、西と東わかれわかれに見る月かげ戀しさの心やまさりて妾がひとりの秋かと思はる。

評。わが身一つの秋にはあられど。

楓日記　廣島　金原なな子

十一月十六日　霜おきて冷き朝なり、此春植え置きし實生楓のあはれいとしう黄ばみぬ。

二十日　高雄は見違ふばかり赤ばみ、龍田も一つ二つ色つきたり。

二十五日　今日は烈拂ひにて楓は全く散られたり夕方形付て見れば高雄は散りはてゝ一葉も殘らず、誰無雅風のわざならん。

十二月十五日　やがてちり失せん龍田のあはれ可愛くてそと一葉を摘りて刺繍の圖案となしぬ。

評。十二月十五日の日記とりわけて目出度し。

病室　獸枚　瀬高やす子

世を隔て目に入つたは、お池の横築山の叢の裾にお佇れになつてる御姿――十五夜の冱えた月に秋風のお召が明眸り微動も避きぬ虫の音ても、いや〳〵又例の、と思ふと御やつれが、いた〳〵しうも目に立つて、御病後の夜露は――とおたしなめ申上やうも胸しびれて浮きくる涙に御姿が霞んでくる。お嬢様とやつと一聲ふりかへると御すがり遊ばして「乳母や！さびしいわれ。」

評。例によりての才筆並し得易からず。

婦人科産科榊病院
院長　醫學博士　榊順次郎　婦人科産科　毎日午前診察
副　醫學士　久保徳太郎　婦人科外科　外國留學中
副　醫學士　田代謹二　婦人生殖器病　泌尿器病及内科　一般火木土午後診察
●施診火木土自午後一時至二時
麹町區三番町三三(電話番町三九五)

東洋内科醫院
院長診察月水金木前松田醫學士診察火土前窮者施診火木前入院診斷隨時應需松田林兩副長は目下當院に在勤
電本八八八(病院用)八九八(私宅用)
東京神田區駿河臺鈴木町二(御茶水橋畔)
院長　醫學士　高田畊安

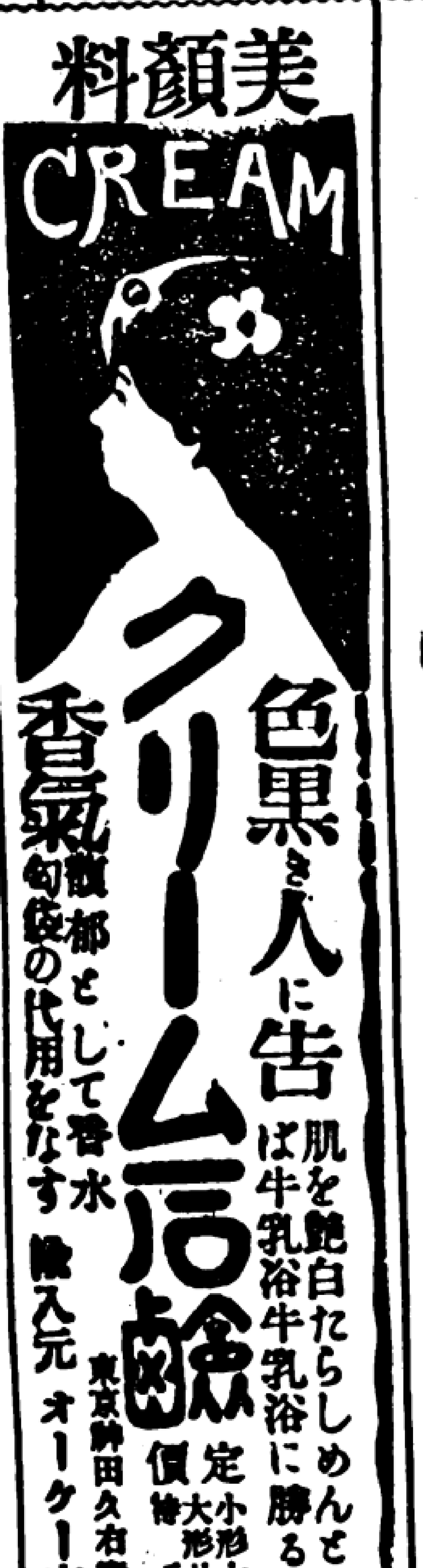
南湖院
神奈川縣高座郡茅ヶ崎村濱(停車場所在)
河野、中村、兩副長は目下當院に在勤院長診察土曜日午後〇同時窮者施診副長診察月、火、水、木、金、土、午前

内科專門　杏雲堂醫院
神田區駿河臺　電本一六六九
院長醫學博士　佐々木政吉

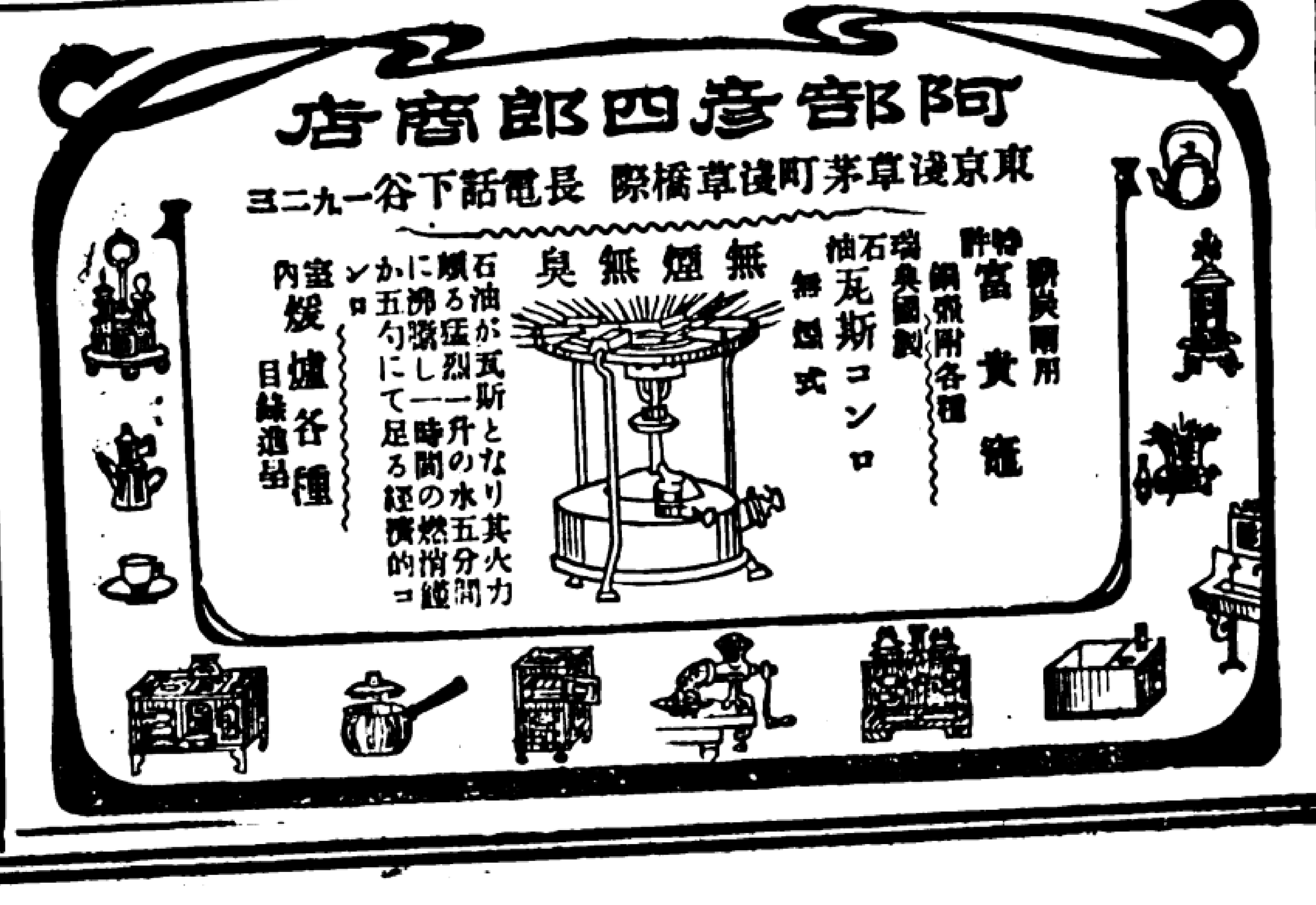
腦病　精神病　神經病
東京府下〇龜戸町　かめゐど停車場ョリ約十丁
加命堂腦病院
電話浪花二五五二
院長　奈良林[illegible]次郎

小兒科專門
腺病質(瘰癧症)
小兒胃腸障害(脾疳)
腹膜炎(腹滿)
小兒皮膚病
ドクトルメヂチーネ　長井岩雄
東京日本橋數寄屋町(吳服橋外)電本百八十

貴金屬寶石美術品袋物一切何品に依らず迅速と廉價を旨とし誠實に新調又は改作の御用相勤め可申候間何卒一層の御引立を以て多少に不拘御下命被下度奉願上候
宮内省御用達　玉寶堂
電話下谷一特九六五番　一二〇四番



失明軍人の講習を終り午後閑暇を得しに付治療の依頼に應ず
マッサージ鍼治
東京盲啞學校鍼按科教員　奥村三策
小石川原町一三三植物園裏



東京市日本橋區通一丁目
合名會社　**森村銀行**
電話（特）本局六七三番　電話本局四九八番

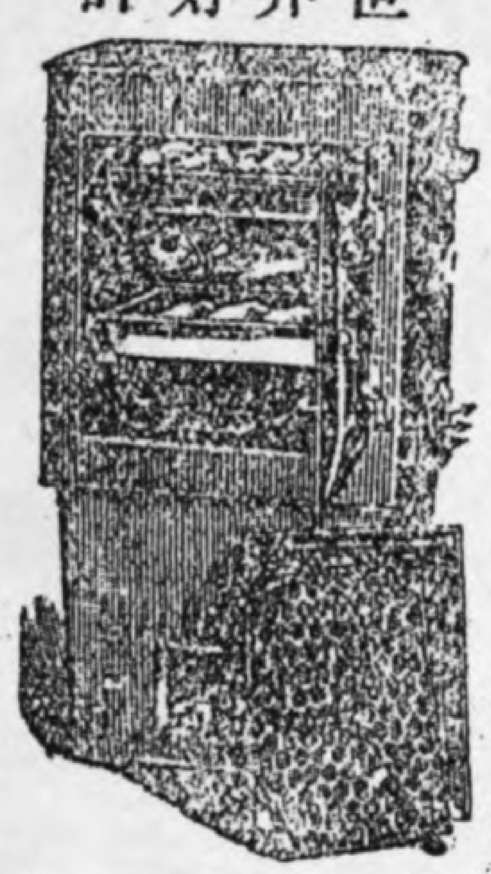
定期預金　六ヶ月以上　年六分五厘
當座預金　百圓に付日步　一錢
小口當座預金　同日步　壹錢參厘

東京市麴町區錢瓶町（常盤橋內）
日本興業銀行
電話本局　一、二八〇〇番　三、三〇〇番　四一〇番　（特）三七二番

資本金壹千七百五拾萬圓
營業科目
一　擔保附社債に關する信託業務
一　有價證券其他貴重品等の保護預
一　有價證券の賣買元利金の支拂及び取立
一　地方債、社債、株式等の發行募集事務
一　各種の信託事務
一　國債證券、地方債證券、社債券、株券の擔保貸付及手形の割引
一　國債證券、地方債證券、社債券の募集又は引受
一　法律規定に依り設定したる財團を抵當とする貸付
一　定期預金、特別當座預金

耳鼻咽喉病診療
入院應需
淺草區向柳原町一丁目二番地左衛門橋通り
中村醫院
電話下谷壹壹三〇番

外科　午後往診　夜間診療
本郷區元町一の十四（淨水地西南隅）
醫學士　**三原新太郎**

家庭の重寶　世界好評

專賣特許　**名和式蒸燒器**（一名テンピ）
在來のテンピと異り頂上に火を要せず焜爐の火力のみにて輕便迅速に和洋料菜に最適當の器なり、大器二圓七十錢　中器二圓廿錢　小器一圓七十錢
（一說明書往復はがき）
東京市日本橋區蠣殼町二の一五
名和商店　電話浪花一一七七　振替貯金一〇二五四
到る處（金物店洋食器店）にあり

羽織紐　帯締　其外組物
振替貯金一八五六

妾事薄毛にて種々藥を試しも効なく醫學博士令夫人より奇藥を得薄毛も濃くなり生へざる所迄毛生し嬉さの餘り困る方に分與せしに三百有餘の禮狀を受け不思議のまゝ尚困難者へ告ぐ三錢郵券添御照會あれ……
東京々橋越前堀一ノ四　河村愛子

最新流行
美術蒔繪櫛
諸小間物
束髪用品
和洋化粧品
香水石鹸
浪花一四四六

TAKA-DIASTASE

タカヂアスターゼ

世界最大の製藥工場
パークデビス社は完全なる設備を有する世界最大の製藥會社にして、上圖は其デトロイトに於ける本社工場の全景なり。此他同社は加奈陀及英國に同一規模の分工場を有し、世界の醫家が要求せらるゝ總ての醫藥品を製造す。

高峯氏發見消化新劑
タカヂアスターゼはパークデビス社の製品なり。完備せる裝置の下に熟練なる技術者に依り、製出せらるゝ本劑は品質純良、毎瓶强度均一にして、又其効力永久不變なり。醫師及藥舖諸彥！模造品製造者の誇大なる虛僞的廣告に誤らるゝ勿れ、世上本劑以上の賣品なきは歐米及吾多數醫學大家の實驗報告に徵し確認せらるべし、備用者は必らず高峯氏タカヂアスターゼと指定せられよ、本劑は粉末錠劑水劑の三種として發賣せり各地藥舖にて販賣す
代理店　東京南茅場町　三共藥品合資會社

◀先づ最も評判よき雜誌を撰び給へ▶

女學世界
十月一日發行　拾參號　一冊廿錢　郵税二錢　前金税共八冊一圓六十一錢

◎末の見込ある婦人……三輪田元道　篠田利英
▼描かれたる二個の女性……横井雨紅
▼結婚前の性質くらべ……櫻井嘉子
▼婚前婚後に處する法……秋雨
▽女優論……山路愛山
▽婦人に必要なる頭腦……井深花子
▽姑の書いた花嫁日記……さわらび
▽母の讒訴……こほろぎ
▼如何なる婦人が癈物となるか！
▼女子商館員實歷談……毒紅唇
◎八十三歲老嫗の生活　高須梅溪
▽葵　一條英成
△色づく梢　蘭香女史
▽胡枝花　加藤南山
▽秋色　竹久夢二
▽思ひ　宮崎與平
▽筆蹟　俊子
▽繪葉書　藤園女史
▽外最珍寫眞數葉
●負擔に困る婦人
●心細き分娩の日
●面白き辭世數種
●當世令孃化粧法
●顏を美くする法
●諸國珍菜料理

少女世界
十月一日發行　第拾參號
正價拾錢　郵税壹錢
前金郵税共四十二錢八冊　八十三錢十六冊　一ヶ年分一圓五十六錢

▽口繪　秋の日　▽秋の色　彩色石版　▽寫眞　銅版　愛らしき妹○上海の日本小學校○愛讀者の面影等
◎唱歌　秋の日　田山花袋
◎小說　天の橋姬　巖谷小波
◎郊外散步（記者）
◎學校小說　泣き聲　笠峯
◎少女小說　ゆび輪　西村渚山
◎少女訓話　秋風　石橋思案
◎少女英語　冠詞　太田
◎大黑帽子　三木とみ
◎編物募集

◀●◀（東京本町）**博文館發行**　（振替貯金番號二四〇〇番）▷○▷

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

十月一日より大賣開き見切反物よせきれ澤山

懸賞裾模様實物に染上げたるもの並に圖案各種數千枚其外季節物珍柄取揃陳列

大丸呉服店

日本橋區通旅籠町

貴婦人用西洋小間物

裝飾及御携帯品特口新着肩掛

東京銀座三丁目

伊勢與 三枝小賣部

電話新橋三九二七 振替口座九一〇〇

O.Y

冬物新荷到着

一婦人洋服地及附屬品、袴地
一其他洋小間物、化粧品一式
一婦人洋服裁縫仕候

東京麹町二丁目 大國市藏

八木屋號

(電話番町七四二)(振替口座八五五二)

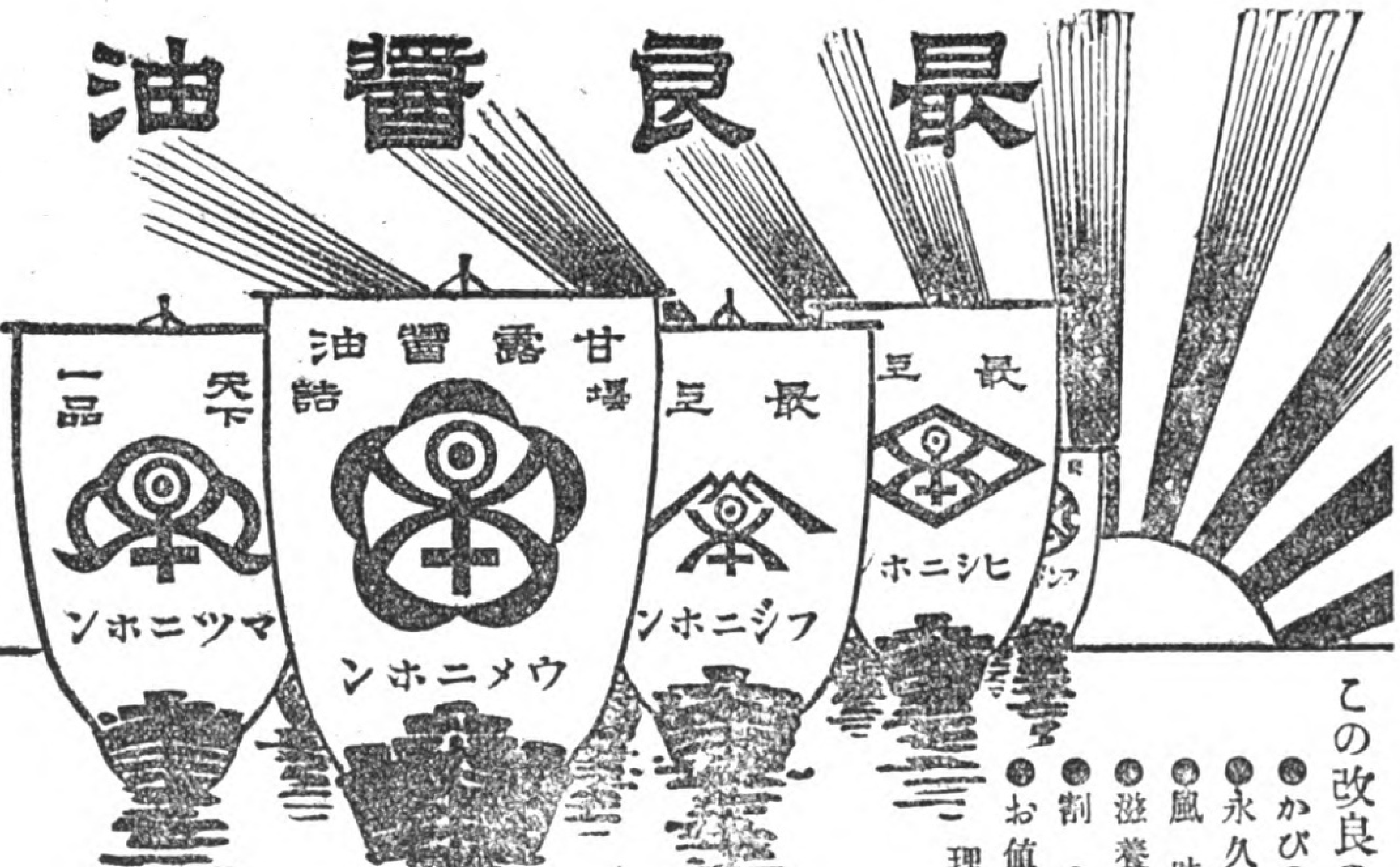
院長醫學士 鳥山南壽次郎

鳥山内科院

午前診察 午後往診

京橋區鎗屋町十一番地
電話新橋千七百四十六番

最良醬油



この改良のお醤油は
●かびの生えるとのない
●永久味のかわらぬ
●風味のよい
●滋養分に富む
●割のきく
●お値段の安い
理想的のお醤油であります

資本金壹千萬圓
東京深川小名木川通 電話浪花(長三七七三番)(一五九五番)
日本醬油釀造株式會社

元賣捌所
日本橋區北新堀町 電話浪花(一四六番)
日本醬油東京販賣所

本舖 井善

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

めりんす友染
古渡り唐ざん
其外おもだかや式格安物

東京日本橋人形町通よし町
赤のれん
おもだかや本店
電話浪花四三四五

演藝畫報

▲十月一日發行
二年第拾號
▲定價一冊廿錢
▲郵税一冊貳錢
▲振替貯金送金
▲手數料金貳錢

口繪　北條高時(安田靱彦)朝比奈猿限(鳥居清忠)
寫眞　三都最近演藝寫眞三十頁數十種
名家眞相　川上音二郎　川上貞奴
芝居見たまう
脚本　鳥花假宿及び熊野矢　日本の戀(本郷座)　口渡(横濱喜樂座)魚
藝談　歌六、簑助、離德、壽美藏、廷三郎、女寅、團吉　屋茶椀(宮戸座)白虎隊(明治座)
演藝行脚　東京、大阪、京都
雜錄　雁次郎、離班、芝雀、多見之助、革新劇女優等　女定九郎の狂言原作、俳句、川柳、狂句　長唄勧進帳と鶴龜等
閑興　狂歌、情歌等
其他多趣味の記事

東京々橋區南佐柄木町七番地
電話新橋五〇五七△振替口座六〇〇二
演藝畫報社

今回佛國より最新季節向東髪用四五六吋リボン
極歯通りよきハイカラ櫛
タボ櫛　横櫛　二枚櫛　新着仕候

流行の
帯留　簪

三ツ井屋

十月一日より
冬衣大賣出し

七五三祝着裾模様懸賞圖案并に染織品陳列致置候
よせ切見切反物并五十錢均一品種々取揃へ日々差加へ置候

前回より割合大によろしき
金壹萬圓 第二次 福札相添申候

今回は期間も三ヶ月に縮め候間當籤歩合前回より遙によろしく殊に六等以下は大に御便宜の法にいたし申候

神田今川橋
松屋呉服店

西川製オルガン
目録進呈

樂器
十字屋
書籍
振替貯金口座七一五八
東京銀座

平圓盤
發音器

産科婦人科専門
診察毎日午前　入院隨時
淺草區左衛門河岸
電話下谷一〇二八
岩田病院

岩佐病院
日本橋區蠣殼町二丁目廿三番地
(電話浪花六九七番)
診察時間　自午前九時　至正十二時

内科婦人科　院主　岩佐純
内科　院長ドクトル　岩佐新
外科　醫學士　山村正雄
産科婦人科　醫學士　西村漸
腦病脊髄病　醫學博士　土田卯三郎

◎後るゝなかれ◎
破天荒の大安賣
壹圓均一
五圓均一
の賣出しは十月一日より

松
松屋呉服店
日本橋通四丁目(電車停留場前)

THE GEM

ゼム
衛生家必携
懐中良藥

愛國
理想の婦人
深き母、常に快活なる氣を以て子を育する母の爲身を愛し、家の事を執るに明敏なる婦人

家庭にあり又交際場裡にありて常に清涼快活ならんには「ゼム」を服用せらるべし

◎主効
◎頭痛◎眩暈◎氣鬱◎舟車酔◎時候傷◎水傷◎食傷◎消化不良◎口熱◎口中悪臭◎其他常用すれば氣分を爽快にし音聲を美にし諸種悪疫を豫防す。

定價　七十五粒入十錢　百六十粒入廿錢　四百卅粒五十錢　九百粒入壹圓　容器入廿錢

東京　馬喰町二丁目　愛國堂　山崎榮三郎
大阪　高麗橋二丁目　山崎兄弟商會

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人廣告取扱

京橋區數寄屋橋外 弘報堂
神田三河町 博報堂
京橋區南紺屋町 一星社
京橋區南鍋町 秀逸社
日本橋區上槇町 萬年社
日本橋區箱崎町 春風舍
京橋區宗十郎町 正路喜舍
京橋區日吉町 帝國通信社
同區彌左衛門町 京華社支店
同區南鍋町 廣告社

洗用ワツセル

◎此ワツセルは油じみ油あか如何なる汚れでも揉ずに必ず落る石鹼曹達の如く布を損傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります
◎用法は湯一升に二匁(小杯へ半分餘)の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し後湯又は水にて洗へば自然に脱ますシヤツの如きは(拾貳弓入)一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髪は一匁五分を一升餘の湯に溶し拭してかもじを洗ふ樣に揉ずに洗べし左れば玉子で洗た樣になります又食器臺所道具の拭き掃除にも有効です

定價 拾貳弓入 金拾五錢 六弓入 金八錢 袋入二錢

東京市京橋區三十間堀三丁目 電話新橋一七一二
英國製ワツセル日本一手販賣元
御肌洗ひこ芳香ワツセル製造元
三友商會

內科 外科 產科
婦人科 耳鼻咽喉科
皮膚科梅毒 泌尿器科
各專門分擔
芝愛宕町 東京病院
電話新橋(三六四)(二六二〇)
院長 醫學博士男爵高木兼寛

齒科 ドクトル 齋藤清太郎
麹町有樂町帝國ホテル向(電本千五百十九)

◎婦人病專門
芝明舟町十九虎門外宮樣前
電話新橋三三二四
院長 櫻井克己
櫻井醫院

胃病良藥 太田胃散

しらがの赤毛の人に告

二瓶一組小卅錢中五拾錢大一圓前金無送料代金引換注文は廿二錢申受、取次人申込該液劑は獨逸醫學博士の發明に弊店多年の試驗劑を加味せし新藥にて僅か十分間に染上り黒き光澤を發し美麗なるは鳥羽の如し而して永久禿げる事なく毛を切らず皮膚に無害なるは弊店保證す明細書は郵券貳錢送れ
東京京橋區本材木町三ノ四
毛染所 岡田商店

良藥にして口に甘し
たんせきに
すきはらに
めし
あさだ
淺田飴
たんせき ひきかぜ はいびやう よわきくによし
定價 金五拾錢 金參拾錢 金貳拾錢 金拾錢
東京本店 堀内伊太郎
大坂支店
全國取次藥店

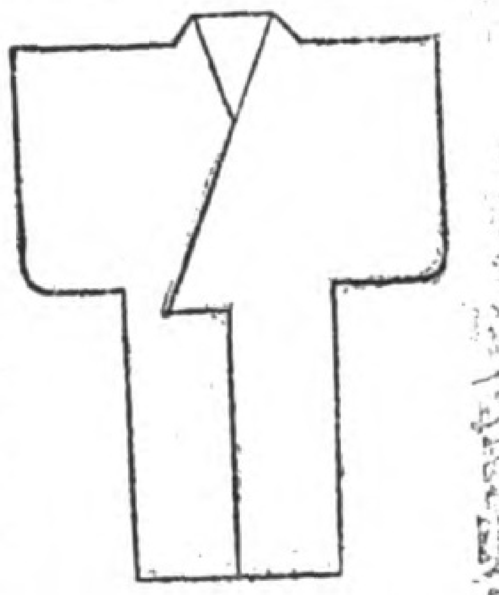
內科一般
東京神田美土代町三丁目十七番地
午前宅診 午後往診
板垣亨
電話本局貳千九百七十番

東京日本橋
三越呉服店
十月一日より
一 第十六回新柄陳列會
一 懸賞光琳式明治模樣圖案陳列
一 光琳派古美術參考品陳列
一 歐米新流行諸雜貨類陳列
一 寄せ裂れ見切反物大賣出し
右は今回特別盛大に開會致し御高覽に供し奉り候間不相變御誘ひ合され賑々敷御來觀被成下候樣偏に奉願上候

資本金千八百萬圓
東京京橋區木挽町
株式會社 十五銀行
電話新橋 一三〇番 一五三〇番 三一九三番
同日本橋區新乘物町
同 日本橋支店
電話浪花 一九〇一番 三二七四番 三五〇八番
一 定期預金 六ケ月以上年五分
一 當座預金 日歩七厘以下
一 特別當座預金 日歩[illegible]

今年のはやり物は流行品に[illegible]
はやりは春の家へ限る
本店 神田表神保町壹番 電話本局二八五三
出店 新橋博品館階上

◎衛生無類 腹卷腰卷
此他眞綿細工品はチヨツキモ、引はだ襦袢等幾度も洗濯の出來ます品を何品にても御用命に應ず



[illegible]眞綿は三越呉服店、白木屋呉服店其他各呉服店綿店に販賣す
報知社代理部
優等の眞綿にてすいださぬ樣に拵へたるものにて御一人で御自由に御使用下さる上に一倍以上の強さと暖かさのある……
至極徳用の品でありますす是非御試用を願上ます
代價 七十錢 九十錢 ○一圓十錢 一圓三十錢 ○郵税八錢(五枚迄)

本品は藥入眞綿製にして疝氣、寸白、子宮病、僂麻質斯、貧血症、冷腹痛、下痢等總て冷氣より來る腰腹の諸病に特効あり其他産前産後に最も効能あるは醫師の證認せらるゝ所なり
定價郵税共 腹卷 特製壹圓五十錢 並製壹圓五錢 腰卷 貳圓 一圓六十五錢

實證としては毎夜就寢後三四回便通の人此腹卷を用ひしに速に其効を奏し翌朝に至る迄安眠するを得たりと如何に其効の著大にして神速なるかを知り給ふべし

特約店
◇眞綿打綿問屋 東京京橋區銀座四丁目十七番地(電話新橋一七七六) 振替口座九四三二 大和屋商店
◇眞綿打綿問屋 東京本郷區本郷四丁目廿四番地(電話下谷二六五九) 振替口座四七八六 桝屋商店
○受賣御望の御方は特約店へ御申込を乞ふ

最上醬油 キハク印 香
於淡路島博覽會 名譽大賞牌受領
醸造元 千葉縣野田町 茂木七郎右衛門
キハク印醬油は味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判ですどーか其あぢのよくてそして經濟であると云ふことを御ためし願ます
東京支店 日本橋區小網町三丁目 電話浪花五七七四 中野長兵衛

明治四十一年十月五日發行(毎月五日廿日二回) (定價金三錢五厘一ヶ月七錢郵税不要)(廣告料一行金六拾錢) 發行兼印刷人 山澤俊夫 編輯人 永松德一 發行所 東京麹町區飯田町 愛國婦人發行所 發賣所 同 京橋區南鍋町 株式會社隆文館 印刷所 東京市牛込區市ヶ谷加賀町秀英舍工場

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

附録 愛國婦人會記事

支部情況

△靜岡支部▽

□第一回總會 は左の順序に依り開催。十月三日午后零時十七分 總裁殿下、會長、評議員、隨員一行靜岡驛御着、大東館にて御休憩、同一時人車にて靜岡御發同二時三十分久能山御着、同三時三十分久能山御發同四時龍華寺御着風景御覽、四時三十分清水港御着、同所より輕便鐵道にて江尻御着、同五時二十六分靜岡御着大東館へ御一泊△翌四日午前九時御旅館御發人車にて女學校へ御成、同十時三十分女學校御發臨濟寺の御案内、同十一時三十分同所御發繪畫展覽會に御立寄り午后零時三十分同所御用御歸館御晝餐、午后二時御旅館御發人車にて總會へ台臨左の順序に依り總會擧行せらる。

一、午后二時諸員式場に着席(號鈴)
　　奏樂
一、總裁殿下御臨場(一同最敬禮)
　　支部長御先導
一、支部長開會を告ぐ
一、支部長役員名簿及會員表を捧呈す
一、總裁殿下御諭旨を賜ふ(一同最敬禮)
一、支部長答辭
一、支部副長事務の成績を報告す
一、會長祝辭
一、會員惣代祝辭
一、來賓祝辭
一、總裁殿下有功章御授與
　　會長賞狀交付
一、總裁殿下遺族及癈兵惣代に特別賜金御授與
一、支部長式の了を告ぐ(奏樂)
一、殿下御退場(一同最敬禮)

次に式壇の設備を改め舞台とし餘興狂言子盗人、三人片輪を演す右終て同四時御歸館、同六時宴會場へ御台臨同八時御歸館△翌五日午前九時二十九分靜岡御發御歸京

△栃木支部▽

□那須幹事部 田上幹事部長太田原婦人會長を兼任以後愛國婦人會への入會者頗る多く好成績を揚げ居れりと

△京都支部▽

□慰問袋 第一回六百七十五個、第二回二百二十四個を京都支部は直接韓國委員本部に送付せり。

△長崎支部▽

□對馬嚴原幹事部 去五月十六日より五日間同島支部幹事部長原田駒子氏及幹事有功章佩用者委員等により發起せられたる演藝會を開く之れ本會基金募集の爲町の有志者に代り催せるものにして島廳寺井課長、堀池事務員等日夜奔走有志家の贊成を仰ぎて成立せるものなり。今其概を掲げんに此五日間は天氣常に晴朗會員と篤志者の熱心なる毎日近郷近在に至るまで群集し定刻に至れば會場は立錐の餘地もなく會員婦人は國家の爲めなりと賣店に從事せる爲め寄附金と賣店利益と合算五百七十六圓餘に上り諸般の經費を引去るも相當の基金を得るに至れり。之れ全く會員及び篤志者熱心の致す處にして今後此情況のまゝ進行せば全島四十四方里强の本島人口約四萬五千の全部も茲兩三年の内には全く進んで全部會員たるべきか。敢て報告す。(山口縣太郎)

□台臨 總裁殿下には本月四日開催の靜岡支部總會へ台臨の爲め、岩倉會長、松平評議員(男爵夫人)を從へ三日午前八時新橋驛を御出發あらせられたり。

□評議員會 九月廿四日午後二時本部樓上に於て開會、本支部及海外委員、韓國委員本部規則改正、長野支部授業場及事務所新築その他數件に就き協議せり。當日の出席者は岩倉會長、近衞、岡部兩理事、三井監事、東郷、阿部、井上、細川、戸田、宇佐川、松平(須磨子)、松村、阪井、千家、關、高木、棚橋、山脇、松浦、有島、三輪田、三井(照子)、三井(五十子)、三井(榮子)、有島、井伊(增子)、龜井、押川の各評議員にして午後四時閉會せり。

□見送 九月廿七日午後六時半元本部評議員片岡たま子氏舞鶴鎭守府へ轉任の良人と共に新橋驛より出發に就き伊東監事、伊集院、高木、千家、有馬、豐島、澁谷各評議員及阿部評議員代見送らる。

□評議員囑託 總裁殿下より左の二氏に評議員囑託せらる。

農商務次官押川則吉夫人　押川愛子
警視總監龜井英三郎夫人　龜井眞州子

△熊本支部▽

□愛國婦人會例會 は客月二十一日午後一時より赤十字支部に於て開きたるが折柄の雨天にも拘らず四十余名の參會あり同會支部よりは河内山主事以下吉田、島田、赤星の三事務員出席し南木氏の修身談及筑山女史の割烹法講話は例によりて多大の興味と裨益とを與へ終りて河内山主事の會務報告あり散會せしは午後四時頃なりしと尙因に同會に於ては先頃來韓國駐屯軍に寄贈すべき慰問袋の募集中なるが最早締切期日も切迫したるを以て縣下各地の應募者より送付し來れる金品頗る多額に上り殊に昨日の如きは出席會員各自金品を持寄りたれば既に豫定數を超過せんとしつゝあるの狀態にて應募者は此際可成急に送付せざれば或は期日に後れ折角の好意も水泡に歸するか如きことあるへしと云ふ

愛國婦人會會員女子人口比較表

明治四十一年八月末日現在

支部名	特別會員 終身	特別會員 年賦	特別會員 計	通常會員 終身	通常會員 年賦	通常會員 計	合計	卅六年末女子人口	女子人口百人ニ付會員比例	贊助員
山口	二八〇	九六一	一、二四一	一、〇四三	二七、五三六	二八、五七九	二九、八二〇	五〇六、九二〇	五、八八	一三
石川	五一八	一、四六〇	一、九七八	三七〇	一九、六七三	二〇、〇四三	二二、〇二一	三八五、四七八	五、七一	｜
山形	一六七	八三二	九九九	六一二	二一、一一三	二一、七二五	二二、七二四	四三九、六一八	五、一七	一〇四
廣島	四五六	二、〇〇三	二、四五九	一、一一二	三〇、七五七	三一、八六九	三四、三二八	七四六、六六五	四、六〇	一五
愛知	四八七	一、一〇二	一、五八九	一、八三九	三四、一九二	三六、〇三一	三七、六二〇	八六八、五三八	四、三三	一四一
福岡	三〇五	二、四一五	二、七二〇	六九二	二九、六四八	三〇、三四〇	三三、〇六〇	七七二、七四三	四、二八	四
岡山	二三四	八八八	一、一二二	三九〇	二二、七四五	二三、一三五	二四、二五七	五七七、二七二	四、二〇	一二
兵庫	五四六	一、七三七	二、二八三	一、二六四	三三、三一八	三四、五八二	三六、八六五	八九三、七三四	四、一二	一八
島根	一〇八	三四六	四五四	三四八	一三、五八四	一三、九三二	一四、三八六	三六二、六三五	三、九七	一
神奈川	四〇三	一、三五〇	一、七五三	七四三	一七、二五六	一七、九九九	一九、七五二	四九九、六二三	三、九五	七三
京都	四六六	二、一一九	二、五八五	五七三	一七、三一八	一七、八九一	二〇、四七六	五二〇、三九五	三、九三	｜
愛媛	九四	四五七	五五一	三二四	一八、五二四	一八、八四八	一九、三九九	五一一、三九六	三、七九	四七
富山	一二四	九三一	一、〇五五	一九〇	一三、一一一	一三、三〇一	一四、三五六	三八四、九八二	三、七三	五二
北海道及函館	三七五	二、九〇三	三、二七八	四七九	一四、九一二	一五、三九一	一八、六六九	五〇七、六二八	三、六八	六三
香川	二一六	六〇一	八一七	五二八	一一、一六三	一一、六九一	一二、五〇八	三四七、八九〇	三、六〇	｜
熊本	二八一	二、六五二	二、九三三	四一一	一八、四四六	一八、八五七	二一、七九〇	六一〇、四一一	三、五七	一二
青森	二〇四	一、一四五	一、三四九	三六七	九、三六〇	九、七二七	一一、〇七六	三二三、二一一	三、四三	一〇
秋田	二二三	六二七	八五〇	四七五	一二、二〇一	一二、六七六	一三、五二六	四〇三、九四六	三、三五	三
群馬	二一七	一、二六八	一、四八五	一八八	一三、四九二	一三、六八〇	一五、一六五	四五四、一七一	三、三四	二
宮崎	七八	三三二	四一〇	一六一	七、六六二	七、八二三	八、二三三	二四七、二七二	三、三三	一九
長崎	一、二六五	二、三一九	三、五八四	一、一二七	一〇、五一九	一一、六四六	一五、二三〇	四八九、三五〇	三、一一	二
佐賀	一二七	七八三	九一〇	一四一	八、八〇〇	八、九四一	九、八五一	三二七、六七八	三、〇一	二
福井	一一二	七二〇	八三二	三〇八	七、八四二	八、一五〇	八、九八二	三二〇、一五四	二、八一	九
大分	一二五	七三四	八五九	二七〇	一〇、八五一	一一、一二一	一一、九八〇	四三〇、〇二五	二、七九	三
栃木	一五一	七二六	八七七	三八〇	一一、〇〇九	一一、三八九	一二、二六六	四五〇、一二六	二、七三	七
宮城	一九五	一、二七二	一、四六七	二〇五	一〇、二八九	一〇、四九四	一一、九六一	四四五、〇四七	二、六九	二
長野	一八二	一、一三二	一、三一四	八四八	一五、五六九	一六、四一七	一七、七三一	六七四、七一五	二、六三	一三
三重	一一五	三二二	四三七	五二六	一二、七〇二	一三、二二八	一三、六六五	五二二、〇四三	二、六二	七〇
岩手	七七	五八六	六六三	一七七	八、六五四	八、八三一	九、四九四	三六九、二七八	二、五七	一
東京	一、四〇四	七、七六七	九、一七一	一、一一二	一七、六四〇	一八、七五二	二七、九二三	一、一五七、五一四	二、四一	六八
大阪	六二六	二、七九七	三、四二三	八一九	一六、一四九	一六、九六八	二〇、三九一	八六三、四〇五	二、三六	三四
奈良	三六	二五三	二八九	一三九	六、〇四三	六、一八二	六、四七一	二七八、一九一	二、三三	｜
福島	二七〇	一、〇七〇	一、三四〇	六三〇	一一、二一〇	一一、八四〇	一三、一八〇	五八二、一五六	二、二六	一
德島	八〇	二八一	三六一	三八四	七、二三二	七、六一六	七、九七七	三五二、六〇八	二、二六	六
靜岡	一四六	五七九	七二五	六九五	一二、四八四	一三、一七九	一三、九〇四	六四〇、八四八	二、一七	三三
高知	三七	二一四	二五一	二二四	五、八一一	六、〇三五	六、二八六	三一八、二四五	二、〇〇	｜
鳥取	四〇	一八六	二二六	八五	三、八一九	三、九〇四	四、一三〇	二一七、四四一	一、九〇	五
千葉	一七一	八四四	一、〇一五	四七九	一〇、八七一	一一、三五〇	一二、三六五	六五六、七八二	一、八八	二八
滋賀	一二〇	三三八	四五八	五一二	五、七九一	六、三〇三	六、七六一	三六四、六八八	一、八五	｜
茨城	六八	四六九	五三七	二五五	九、〇九五	九、三五〇	九、八八七	六〇〇、四一三	一、六五	一
山梨	五九	三三八	三九七	一八五	三、八一九	四、〇〇四	四、四〇一	二七二、一四八	一、六二	｜
埼玉	八三	二九六	三七九	四四五	九、二九九	九、七四四	一〇、一二三	六二七、五五六	一、六一	三八
新潟	二七七	九二四	一、二〇一	七二八	一二、五八九	一三、三一七	一四、五一八	八九九、〇二一	一、六一	七五
鹿兒島	一三二	一、〇八二	一、二一四	一八八	七、六五五	七、八四三	九、〇五七	五九四、九八五	一、五二	八
和歌山	五八	二五七	三一五	一九八	四、一〇五	四、三〇三	四、六一八	三五〇、〇六九	一、三二	｜
臺灣	七六一	七〇〇	一、四六一	二、九六九	一二、〇五〇	一五、〇一九	一六、四八〇	一、四〇二、七七一	一、一七	｜
岐阜	一〇〇	七〇六	八〇六	一七四	四、四九六	四、六七〇	五、四七六	五〇二、六五八	一、〇九	一
沖縄	四一	三〇九	三五〇	四五	一、七五八	一、八〇三	二、一五三	二三九、五二七	〇、九〇	｜
韓國	｜	一、二一二	一、二一二	｜	一、九八六	一、九八六	三、一九八	｜	｜	三八九
海外	二一三	四七	二六〇	六八	二五	九三	三五三	｜	｜	三五
計	一三、八三三	五四、四一二	六八、二四五	二七、四二五	六四五、一七三	六七二、五九八	七四〇、八四三	二五、四一五、〇四〇	二、九二	一、五二七

備考
(一) 支部の配列は會員比例數の最も多きものより順次配列す
(二) 北海道及函館の兩支部會員數は合算して掲載せり而して函館支部會員數は特別五百廿五人(終身六十四人年賦四百六十一人)通常千八百十六人(終身八十八人年賦千七百三十六人)にして他は北海道支部會員數なり
(三) 韓國支部の報告は終身會員年賦會員の區別なきに付假に年賦會員の欄に掲載せり
(四) 海外委員部の内北米合衆國桑港及シヤトル並に布哇國ホノルヽは報告未達に付之れが調査を缺く

△韓國本部▽

□慰問袋 當委員本部より慰問袋寄贈の件に付、客月卅日韓國駐劄軍司令官其他へ左の書狀を發送せり

拜啓韓國暴徒討伐の爲め各地に駐在せらるゝ軍隊憲兵警察官諸氏に對し聊か慰藉の意を表する爲め當委員本部に於て慰問品寄贈の計畫をなし候處東京本會府縣各支部幷韓國各委員部の贊同援助する所となり今般七十余萬の會員有志者中に於て熱誠なる同情を以て調製したる慰問袋幷紀念繪葉書を直接間接討伐に從事せられたる諸氏貳萬叁千餘人に寄贈することに相成候間右慰問品送納の上は御交付方可然御取計相成度此段得貴意候也

明治四十一年九月卅日
愛國婦人會韓國委員本部長鶴原誠子

韓國駐劄軍司令官
第十三師團長
憲兵隊長
內務大臣
宛各通

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

慰問袋寄贈

△第三回報告▽

韓國駐屯軍隊及憲兵警察官等に對し、本會より慰問袋幷繪端書を寄贈する筈の處客月十五日以後同廿八日迄に通知を受けたる寄贈者の氏名左の如し、

慰問袋數	繪端書數	職員	氏名
自製五〇	—	本部評議員伯爵夫人	小笠原貞子
一〇〇	五〇	同	江木仲子
一〇〇	五〇	同	古市幸子
一〇〇	五〇	同	片山龜子
二〇〇	五六	同子爵夫人	川村清子
五〇〇	四〇	同侯爵夫人	德川久子
一〇〇	八〇	同	三井照子
一五	—	同	長岡芳子
一五	—	同	澁谷知和子
八	二	同伯爵母堂	兒玉松子
一〇	八	同	保利久土子
二七	五	同	大迫隆子
自製五	二〇	同男爵夫人	高木富子
三	五	同	堀光子
一五	—	同公爵夫人	二條治子
八〇	二四	同	早川里子
一〇〇	八	同	武田錦子
一〇〇	五〇	同	新山雅樂子
一〇〇	四〇	同	棚橋絢子
自製一五	—	同伯爵夫人	佐々木貞子
一〇	—	同故伯世嗣夫人	佐々木行子
一〇	八	同	豐島文子
五五五	四	茨城支部	

△東京支部麻布區▽（慰問袋二）幹事丹羽花子、同德尾季子同尾崎八重子、同小川婉子、同若宮よね子、同田村影子、同武智菊子、同山地鎌子、同手塚けい子、同麻生筆子、同淺野春子、同白石菊子、同花房隆子、同木村常野、同兵頭喜舞子、△神田區▽（同）繪端書一〇慰問袋二〇）幹事薄井貞子（同）繪端書一〇慰問袋二）同中澤久米代子、（慰問袋一（同馬島元德、同馬島園子、同馬島榮子（繪端書一〇〇慰問袋三）幹事山本壽々子、（繪端書一〇〇慰問袋二）同堀內ゑん子、自製繪端書七慰問袋三）同佐藤そみ子、（繪端書一〇慰問袋三）同香取いし子、（慰問袋二）同齋藤勝子、（同一）大久保歌子、

（繪端書一〇慰問袋五）鈴木みちよ、（慰問袋二）江部みよ子、同岡田はま子、（同一）今井榮子、同山本はつ子、同高田みね子、川越もと子、同野村孝子、同石川あい子、同奧田すゞ子、同小松ちゑ子、同國井みつ子、同國井とし子、同三好かつ子、同茂任つい子、同白井きわ子、（繪端書一〇慰問袋三）主任幹事橫幕武良子、（慰問袋三）韓事酒井李喜子、（同一）會員宮内キン子、同八代丈子、（同二）同堀江カメ子同小久江利男、同騷飯塚きぬ子、△北多摩郡▽同韓事部長鷲見幸子、（同一）韓事林壽々子、同平井さき子、同香山保能子、同菊池ゐそ子、同矢部ミネ子、同桑田志佐子、同島田キス子、同中島エキ子、同村木シン子、同關田勝子、同矢島美野子同竹内ウラ子、（繪端書二〇）同井上チセ子、同青木トシ子、（繪端書一〇慰問袋三）△小石川區▽幹事久世きく子、（慰問袋二）石原きん子、（繪端書一〇慰問袋五）同桑原朝子、（同慰問袋三）同寺見時子、同笠井梅野子、（同慰問袋二）同中村せん子、同下瀬勝千代子、同志賀八重子、（同三）同穗積千鶴子、同河津敏子、（同一〇）同有馬智子、（繪端書四〇）會員武島登那子、（同一〇慰問袋五）主任幹事松崎悅子、（慰問袋一）松崎けい子、同松崎あい子、同町田とく子、同渡邊なつ子、同相澤さく子、（同三）△牛込區▽幹事拓植愛子、（同七）拓植看護婦會、（自製繪端書一〇〇枚）幹事仁尾繁子、（同二〇慰問袋五）同石塚督子、（慰問袋一〇）會員宇山ロク子、（同五）幹事安藤サーク子、同岡村多賀榮（同三）同淺尾忠子、同西川つい子、（同三）同岡村千代龜、（自製繪端書三〇慰問袋三）同笹岡さち子、（慰問袋一）鹽坪あい子、同安田はつゑ、（同二）△本所區▽幹事細川同子、同沼崎愛子、同和田せん子、同高田八十子、同染谷惠喜子、同植村誠子、同松平雅子、同布施榮子、同小泉靜子、同近藤廣子、同北村子、同日吉德子、同小池奈可子、（同三）同大地妙子、（繪端書四〇慰問袋二）主任幹事栗塚龍子（同一二同五）幹事安田房、△北豐島郡▽（同三八同一〇）同田中とみ子、（同五〇同一五）幹事諸島すみ子、（同一〇）同鈴木英子、（同二八何一〇）同佐藤榮子（同二四同五）植原ロク子、同吉田タイ子、△京橋區▽（繪端書五慰問袋三）幹事萩原仙子、同西里子、同金子貞子、同田島よね子、同主任幹事宇津木廣子、同幹事福原德子、同小林あさ子、同江藤照代、同阿部たか子、同佐久間勝子、同下村花子、同森島榮子（繪端書一〇慰問袋二）委員宇津木利子（繪端書一〇）會員宇津木利子（慰問袋二）同角田よそ子、△深川區▽同幹事鈴木とめ子、同關口きん子、同岩崎千代子、同田村安期子、同齋藤專子、同山本ひさ子、同波多野五十子、同窪田あさ子、同一又靜子、同關口ます子、同松平竹子、同田口さだ子、同川名よし子、同鈴木いね子、同市川田鶴子、（同三）同中

村ヤセ子、同沼田たか子、同小野澤ツネ子、同笠原うた子、（同一）同溝口いち子、同鄉茂と子、同齋藤千代子、（同八）同服部錫子、（同一五）同服部みち子（繪端書四〇）幹事武市ちか子、同黑田すゑ子、同鹿島糸子、同大高やち子、同小野澤すて子、（同二〇）同鹿島琴子、（慰問袋二）會員山田たみ子、同筒井忠次郎、（同一）山田滿壽子、同高橋ゆき子、同大場しげ子、同山本ふみ子、同山本ひで子、同山本しげ子、同吉野やを子、同伊藤丈子、同日向ッマ子、同日向ネミ子、同松成リウ子、同小野ヨウ子、（同三）藤田安子、△西多摩郡▽同幹事濱中ツネ子、同山崎キク子、（同二）同平岡キミ子、同根岸ヤエ子、會員田中イク子、同新井ミネ子（同一）會員淺山タケ子、同記イカ子、同根岸コマ子、同中澤マサ子、同高橋テル子、同辻川ハン子、同辻川キン子、同濱中ウタ子井上チヤウ子、同根岸ツグ子、同福田フク子、同幹事平岡キン子、同平岡アイ子同根岸リウ子、同廣瀨フキ子、同野口ウタ子、同内山トミ子、同土屋會根子、同野村モト子、同會員稻葉セキ子、同鈴木カノ子、同鈴木フサ子、同根岸ヤツ子、同河野クラ子、同高野ハル子、同中尾ミネ子、同廣瀨終子、同根岸喜代子、同並木タツ、同板垣まず子、同今地ユキ子、同榎本ヨネ子（繪端書二慰問袋一）會員佐藤スミ子（繪葉書五）同田中クワ子、（同一〇慰問袋一）幹事稻葉シッ子（同五同一）幹事部長武藤悅子、（繪葉書二〇）會員根岸フデ子（同八）同岩浪タネ子、△芝區▽（繪葉書八慰問袋五）幹事服部文子（同八同二）同村田歌子、同主任幹事川崎安子（同八同三）幹事勝野愛子（慰問袋三）幹事印東貞子、同小川梶子、同長原仲子、同藏田芳松、同荒牧會根子（同二）同中澤春子（同一）同永田てつ子、同會員反町芳子、（同四）高橋さわ子（同二）△荏原郡▽幹事島山千香子、（同一）同岸カネ子、同渡邊タケ子、同寺島喜代子（同二）、幹事部長加納鎰子、同一）寺島富士子、同會員山口節子、同山ロきみ子、山口知惠子、同山口尙子、山口芳子、山口貞子、同山口範藏同會員岸スャ子、同松平須磨子（繪葉書一〇慰問袋二）幹事齋藤逸子、（同八）同平松嵯峨子（繪葉書一〇〇）同原富子（同一二〇）同益田榮子（同四〇）加納重子、同治子、同芳子（繪葉書一六慰問袋二）△赤坂區▽幹事松平芳子、同山脇房子、同勝たま子、同羽田三緒子、同保利久土、同馬場ふく子、同進みち子、同會員松平須磨子、同主任幹事新山雅樂子、△四谷區▽（慰問袋一）幹事波多野竹子、同星野たき子、同松平すゞ子、同小具貞子、同石川わか（同二）幹事波多野繁子、（同三）幹事鹽田孝子、同仁料靜子、（同四）同山上淑子、（同一）鹽田一、同呈野直昭、同春子、同水本いち子、同會員金川てら子、同黑田章子、同黑田淑子、同石川濱子、同

堀永ふさ子、（同三）柳谷綾子、（同二）有馬花子、（繪端書四〇）四谷幹事部△南葛飾郡▽（同四〇慰問袋一）幹事部長武市喜美子（慰問袋五）鈴木いよ子、（同三）中島イッ子、同田崎なつ子、同佐川かつ子）同高橋せん子、同渡邊げん子、同幹事鶴岡ふさ子（同二）同福田いし子、同丸山玉子、同鈴木わか子、同管みつ子、同間仲久江（同一）小山ウラ、同小山チウ子、同吉住いし子、同光野きり子、同櫻井きん子、同小村井きよ子、同高野なみ子、同豐田かよ子、同鈴木くま子、同小宮みつ子、瀧澤ウラ子、富岡たつ子、小宮ヤス子、伊藤貞子、伊藤ふき子、藤太郎、伊藤次郎（慰問袋二）橫山しね子橫山きん子（慰問袋一）幹事小宮か子小宮とし子、小宮ふじ子、鴨脚すゑ子、瀧澤ツギ子、小宮淸七、小宮かま子、村郎はつ子、瀧澤キチ子、三縫キヨ子、三橋みん子、小澤啓四郎、小林さく子、淸水菊代、田淵てる子、江川不美枝、淸田やま子、加山安衞、小宮末子、小山子平野キヨ子、岡山ひさ子、村越みつ子、大木小學校、韓事中島幸子、港野すい子中島利奈子、矢作萱子、中島松子、高木鶴子、矢澤しま子、中川嘉介、牧あい子渡貝よし子、幹事草薙ゆい子、同大場よね子（慰問袋二）小宮嘉代、小澤啓次郎、小林さく子（同上三）幹事奈良林とよ子（同上四）葛西小學校職員一同（同上一）宍倉八重子、遠藤兼子、幹事吉田鍠子、吉田とく子、吉田とら子、吉田ふく子田村馬之助、齋藤由太郎、吉田孝吾、吉田勘太郎、吉田平次郎、吉田ます子、座間鐵藏、谷部覺太郎、磯貝彌八、小高平次郎、小高庄太郎、小高伊三郎、小高健太郎（同上二）小村たか子（同上一）大庫いち子、岡田竹次郎、富澤四郎吉、岡田仙太郎、富澤紋次郎、宇田川直次郎、宇田川初太郎、木下甚藏、堀江常次郎、同富澤幸太郎、同細川福吉、同齋藤實吉同吉田兼二郎、同石戸てう子、同伏田慶次郎、同木下源兵衞、同吉田金之助、同山本善次郎、同古川いわ子、△淺草區▽（同上一）幹事今井てう子、同新藤喜知子同長田いせ子（慰問袋二）同松平岳子、渡邊るい子、同大井百子（慰問袋三繪葉書一二）大瀧きん子（慰問袋二繪端書一二）江崎うた子、（繪葉書四〇）倉崎ふく子（繪端書五〇）青地榮子、（繪端書一〇）今井きぬ子、（繪端書四〇）岡部まさ子、同中居峰子、同神谷千代子、同町田晴子同須藤艶子、同岩崎てう子、（繪端書四八慰問袋一〇）南足立郡幹事阿部△本鄉區▽（繪端書五〇慰問袋一〇）阿部龍子（繪端書一）山田いく子（慰問袋一）渡邊けん子（慰問袋二）西尾林美子、同鈴木晴子、同後藤花子、同橋本婦美子、同萬木幾子、同町田春子、（慰問袋一）久保たみ子、△豐多壓郡▽（繪端書五慰問袋二）丸山すま子、同小野崎たつ子、同加藤安子、同浦月子、同丸山喜美子、同相澤かま子、同

日原志滿子、同比志島雲子、△麴町區▽（繪端書二〇慰問袋五）井上時子、（繪端書一〇慰問袋五）小野ヨシ子、同榊實子、同東慰問袋五）高崎鶴子、同杉浦俊子、末野ヨシ村峰子（繪端書一〇慰問袋一）同二見タツ子、（慰問袋一）沖山しけ子、△下谷區▽子、（慰問袋二）長田しま子（繪端書三慰問袋三）大森くめ子、同海老原鈴子、（繪端書四慰問袋四）内海きく子同赤井豐子、同清水德子、同下山行子同守田いち子、同飯塚豐子、△本鄉區▽（慰問袋二）久保たみ子、△日本橋區繪葉書一二〇早川きの子

愛國叢書第一篇

女德論叢

▽懸賞繪葉書附△
▽殘部は少部數なり▽
△定價金二拾六錢△
▽郵稅金四錢▽

愛國婦人發行所

◯院長 ドクトル 木村順吉
京橋卅間堀一丁目角（電話新橋二六七〇番）
婦人科產科 木村病院

水原產科婦人科病院
○神田猿樂町十二番地
○電話本局千八百九番
○院內ニ產婆學校アリ

◎婦人科
◎小兒科專門 午前宅診 午後往診
東京市麴町區飯田町四丁目九
女醫鷲山彌生

神田區西今川町三番地（電話本局三〇一九）
內科病特に腦脊髓神經疾患
院長 ドクトルメヂチーネ 峰秀世
峰內科醫院

小兒病診療
宅診午前 往診午後
淺草區福井町貳番地
醫學士 內田愼太郎
●電話下谷七一八番

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會各支部職員小肖

群馬支部幹事
佩三等有功章渡邊奥子

群馬支部多野郡幹事部幹事
佩三等有功章千木良とう子

三重支部宇治山田幹事部幹事
佩三等有功章村井うめ子

三重支部宇治山田幹事部幹事
佩三等有功章安井橘江

三重支部宇治山田幹事部幹事
佩三等有功章留鹽定子

群馬支部幹事
佩三等有功章關口なか子

明治四十一年十月五日(毎月二回五日廿日)發行　明治三十五年三月二十七日第三種郵便物認可

發行兼印刷人山澤俊夫　編輯人永持德一　發行所　愛國婦人會内愛國婦人發行所

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN